

令和3年7月30日

【照会先】

政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室

統計管理官 仲津留 隆

室長 補佐 齋藤 重正（内線 7471）

計析第二係 （内線 7472）

（代表電話） 03（5253）1111

（直通電話） 03（3595）2812

令和3年度「出生に関する統計」の概況

人口動態統計特殊報告

目次	頁
はじめに.....	1
結果の概要.....	2
1 出生の推移.....	2
(1) 年次推移.....	2
(2) 年次別分析（時代による変化）.....	3
(3) 出生コーホート別分析（世代による変化）.....	5
2 出生動向の多面的分析.....	13
(1) 父母の結婚期間からみた出生.....	13
(2) 結婚期間が妊娠期間より短い出生の傾向.....	14
(3) 単産－複産の種類別にみた出生.....	16
(4) 妊娠期間別にみた出生.....	17
(5) 出生時の体重.....	17
3 都道府県別にみた出生.....	19
(1) 年齢階級別出生率・合計特殊出生率.....	19
(2) 合計特殊出生率の年齢階級別寄与.....	20
(3) 結婚期間が妊娠期間より短い出生.....	22
参考 国際比較.....	23
統計表.....	25
用語の解説.....	31

この資料は、厚生労働省ホームページに掲載しています。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/syussyo/07/index.html>

はじめに

令和3年度「出生に関する統計」は、毎年公表している人口動態統計の令和元年までの結果をもとに、出生の動向について時系列分析、コーホート分析など多面的に分析を行い、人口動態統計特殊報告として取りまとめたものである。

なお、この「出生に関する統計」は、昭和37(1962)年度「出生時の体重に関する統計」、59(1984)年度「地域別にみた出生の動向」、平成3(1991)年度、13(2001)年度、17(2005)年度、22(2010)年度に続いて今回で7回目である。

人口動態統計特殊報告とは

毎年公表している人口動態統計のデータをもとに、時系列分析などを行い、従来の人口動態統計の統計表を再編集するだけでなく、通常の人口動態統計の報告書には掲載されていない統計表についても集計し、様々な角度から多面的な分析を行っている加工統計である。

死亡、死産、出生、婚姻、離婚などの内容による数種類のテーマの中から取り上げ、昭和59年度以降、ほぼ毎年公表している。

人口動態統計特殊報告を大別すると以下の(1)及び(2)に分類される。

(1)既に公表されている結果について、特定のテーマのもとに再編集等を行ったもの

例：「出生に関する統計」、「婚姻に関する統計」、「悪性新生物死亡統計」

(2)新たな人口動態統計の指標を与えるもの

例：「都道府県別年齢調整死亡率」、「人口動態保健所・市区町村別統計」

最近の特殊報告は以下のとおりである。

公表年度	報 告 書 名
令和2年度	平成25年～平成29年 人口動態保健所・市区町村別統計
平成29年度	平成27年度 都道府県別年齢調整死亡率
平成28年度	平成28年度 婚姻に関する統計
平成26年度	平成26年度 日本における人口動態 - 外国人を含む人口動態統計 -

利用上の注意

(1) 表章記号の規約

… 計数不明または計数を表章するのが不適當の場合
0.0, 0.00 比率が微小(0.05, 0.005未満)の場合

(2) 掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が「総数」に合わない場合がある。

(3) 昭和22～47年は沖縄県を含まない数値である。

結果の概要

1 出生の推移

(1) 年次推移

出生数の推移をみると、第2次世界大戦後、繰り延べられた結婚・出産による昭和22～24年の「第1次ベビーブーム」期（24年270万人）と、その時期に生まれた女性による46～49年の「第2次ベビーブーム」期（48年209万人）の2つの山がみられた後は減少傾向にあり、平成28年以降は100万人を下回って推移している（図1・統計表1）。

また、合計特殊出生率は、「第1次ベビーブーム」期には4を超えていたが、その後、急激に低下し、昭和30年頃からは2前後で推移していた（「ひのえうま」の41年を除く）。第2次ベビーブーム期の46年に2.16まで回復したが、49年に2.05と人口置換水準（同年2.11）を下回り、平成17年には1.26と過去最低を記録した。18年以降は緩やかな上昇傾向にあったが、28年以降は再び低下し、令和元年は1.36となっている。（図2・統計表1）

図1 出生数・出生率の年次推移 — 明治32～令和元年 —

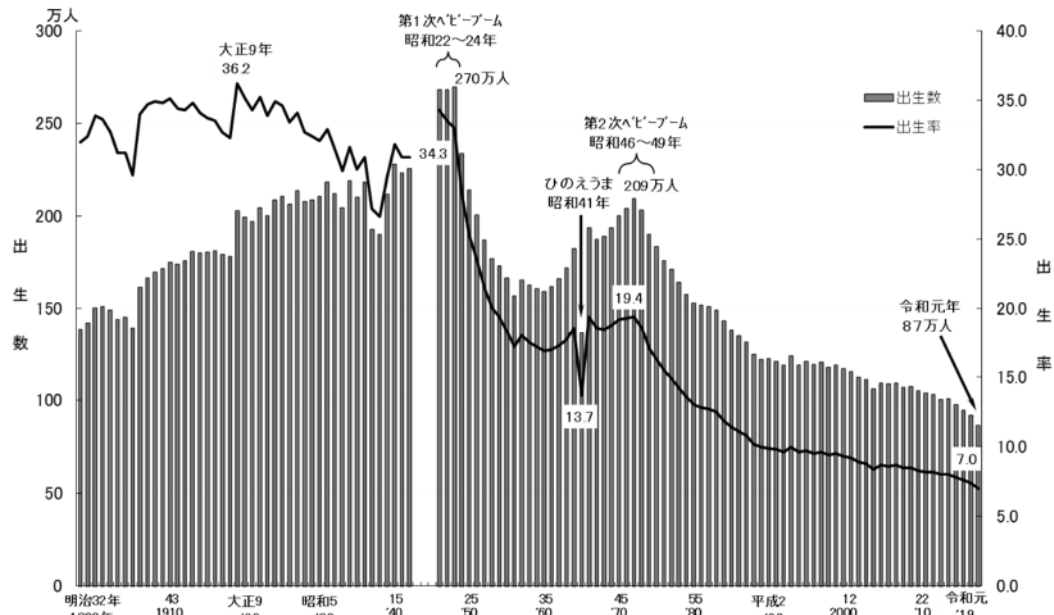
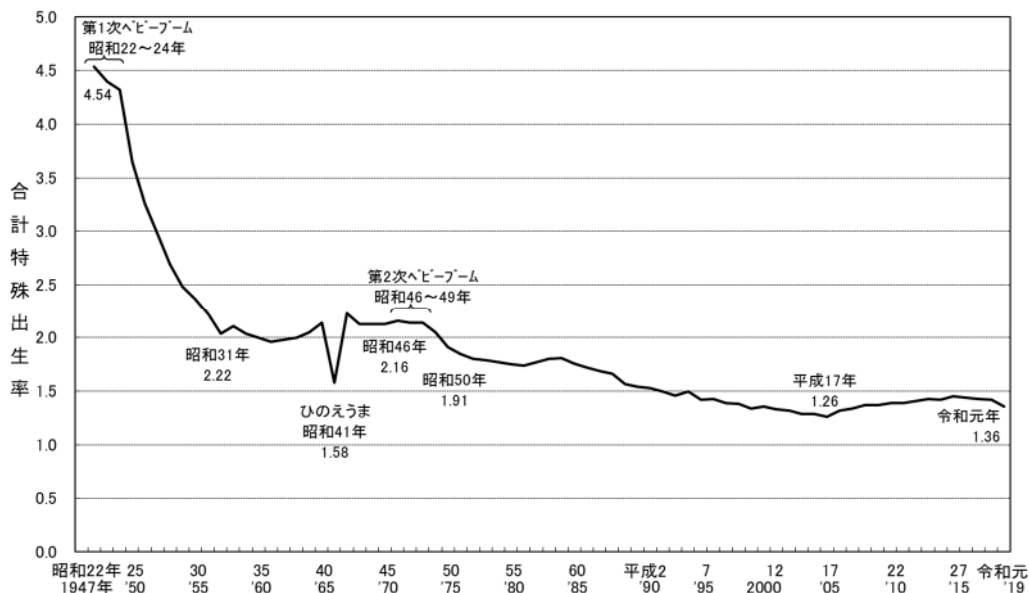


図2 合計特殊出生率の年次推移 — 昭和22～令和元年 —



(2) 年次別分析（時代による変化）

妻の平均初婚年齢は上昇傾向にあり、晩婚化が進んでいる。昭和 55 年に 25.2 歳、平成 6 年に 26.2 歳と、1 歳上昇するのに 14 年かかったところ、平成 13 年に 27.2 歳（1 歳上昇するのに 7 年）、18 年に 28.2 歳（1 歳上昇するのに 5 年）、24 年に 29.2 歳（1 歳上昇するのに 6 年）と、上昇のスピードが速かったが、令和元年に 29.6 歳と、近年は緩やかな上昇となっている。

母の出生時平均年齢も上昇傾向にあり、晩産化が進んでいる。平成 15 年に第 2 子が 30.7 歳であったが、27 年には第 1 子が 30.7 歳と 12 年間で 1 人分の差が生じている。27 年以降は第 1 子が 30.7 歳で横ばいとなっている。

父母が結婚生活に入ってから出生までの平均期間は、第 1 子及び第 2 子とともに長くなり、第 3 子については 6 年台後半で推移している。（表 1）

表 1 妻の平均初婚年齢・母の出生時平均年齢・出生までの平均期間

－ 昭和 50～令和元年 －

年次	妻の平均 初婚年齢 (歳)	母の出生時 平均年齢（歳）			父母が結婚生活に入ってから 出生までの平均期間（年）		
		第1子	第2子	第3子	第1子	第2子	第3子
昭和 50 年	24.7	25.7	28.0	30.3	1.55	4.09	6.67
55	25.2	26.4	28.7	30.6	1.61	4.32	6.78
60	25.5	26.7	29.1	31.4	1.61	4.23	6.97
平成 2	25.9	27.0	29.5	31.8	1.66	4.30	6.98
3	25.9	27.1	29.5	31.8	1.67	4.31	6.98
4	26.0	27.1	29.6	31.9	1.70	4.30	6.99
5	26.1	27.2	29.6	32.0	1.72	4.31	6.99
6	26.2	27.4	29.7	32.0	1.75	4.33	6.97
7	26.3	27.5	29.8	32.0	1.78	4.33	6.93
8	26.4	27.6	29.9	32.0	1.82	4.35	6.89
9	26.6	27.7	30.0	32.1	1.85	4.41	6.87
10	26.7	27.8	30.1	32.1	1.87	4.45	6.85
11	26.8	27.9	30.2	32.2	1.88	4.49	6.86
12	27.0	28.0	30.4	32.3	1.89	4.52	6.86
13	27.2	28.2	30.4	32.4	1.89	4.53	6.85
14	27.4	28.3	30.6	32.5	1.92	4.56	6.82
15	27.6	28.6	30.7	32.5	2.00	4.57	6.78
16	27.8	28.9	30.9	32.6	2.06	4.62	6.75
17	28.0	29.1	31.0	32.6	2.09	4.66	6.74
18	28.2	29.2	31.2	32.8	2.10	4.73	6.82
19	28.3	29.4	31.4	32.9	2.13	4.79	6.87
20	28.5	29.5	31.6	33.0	2.15	4.80	6.89
21	28.6	29.7	31.7	33.1	2.19	4.80	6.91
22	28.8	29.9	31.8	33.2	2.24	4.82	6.94
23	29.0	30.1	32.0	33.2	2.26	4.83	6.95
24	29.2	30.3	32.1	33.3	2.33	4.85	6.95
25	29.3	30.4	32.3	33.4	2.37	4.88	6.93
26	29.4	30.6	32.4	33.4	2.39	4.90	6.89
27	29.4	30.7	32.5	33.5	2.41	4.91	6.91
28	29.4	30.7	32.6	33.6	2.42	4.90	6.89
29	29.4	30.7	32.6	33.7	2.43	4.90	6.92
30	29.4	30.7	32.7	33.7	2.44	4.92	6.93
令和 元	29.6	30.7	32.7	33.8	2.45	4.93	6.96

注：1) 妻の平均初婚年齢は、各届出年に結婚生活に入ったものについての数値である。

2) 父母が結婚生活に入ってから出生までの平均期間は、嫡出子についての数値である。

有配偶出生率をみると、総数では平成 7 年まで低下した後、上昇に転じている。「15～19 歳」「30～34 歳」「35～39 歳」は上昇している。「20～24 歳」は 7 年まで低下した後、上昇に転じている。「25～29 歳」は 7 年、17 年と低下していたが、27 年は上昇に転じている。

表 2 有配偶出生率（有配偶女子人口千対）
－ 昭和50, 60, 平成 7, 17, 27 年 －

母の年齢階級	昭和50年	60	平成 7	17	27
総 数	92.7	72.7	68.0	74.4	79.5
15～19歳	289.7	438.7	559.6	569.3	588.1
20～24	347.7	341.3	322.4	351.8	374.9
25～29	241.7	261.5	233.1	223.4	247.3
30～34	76.3	98.4	122.7	135.6	176.0
35～39	16.0	19.4	30.3	49.1	82.6
40～44	2.3	1.9	3.1	6.2	15.4
45～49	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第 1 子の有配偶出生率をみると、総数では昭和 60 年に低下した後、平成 7 年から上昇している。「15～19 歳」は 7 年から 500 を超えており、有配偶女子の半数以上が第 1 子を生んだことになる。「20～24 歳」は 7 年まで低下していたが、その後上昇に転じている。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。

【第 1 子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成 7	17	27
総 数	41.9	30.5	32.4	35.7	37.6
15～19歳	265.4	401.1	508.0	502.2	506.2
20～24	258.8	250.6	234.1	238.9	251.6
25～29	99.3	117.6	128.2	127.0	144.6
30～34	13.6	19.3	37.7	54.4	74.9
35～39	3.1	3.8	6.9	15.5	29.3
40～44	0.5	0.4	0.7	2.0	6.0
45～49	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第 2 子の有配偶出生率をみると、総数では平成 7 年まで低下した後、上昇に転じている。「25～29 歳」は、昭和 50 年、60 年に 110 台で他の年齢階級より高かったが、平成 7 年で 30 ポイント低下し、17 年では「20～24 歳」を下回った。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。

【第 2 子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成 7	17	27
総 数	37.6	28.7	24.7	28.2	29.0
15～19歳	23.0	36.3	49.7	64.1	78.0
20～24	81.0	82.1	78.9	98.6	102.9
25～29	115.9	114.3	84.0	77.5	76.9
30～34	34.9	43.6	54.3	58.9	70.1
35～39	5.5	7.0	10.8	20.4	34.0
40～44	0.6	0.5	0.9	2.1	5.8
45～49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

第 3 子の有配偶出生率をみると、総数では平成 17 年まで低下していたが、27 年は上昇している。「25～29 歳」と「30～34 歳」は、昭和 60 年には上昇したが、平成 7 年、17 年とも低下し、27 年に上昇に転じている。その他の年齢階級では、上昇傾向となっている。
(表 2)

【第 3 子有配偶出生率（有配偶女子人口千対）】

母の年齢階級	昭和50年	60	平成 7	17	27
総 数	11.0	11.5	9.0	8.5	10.3
15～19歳	1.3	1.3	1.8	2.9	3.7
20～24	7.3	8.1	8.8	13.1	18.2
25～29	24.0	27.2	18.7	16.7	21.5
30～34	22.7	30.3	26.1	18.9	25.2
35～39	4.5	6.1	9.0	10.0	15.0
40～44	0.5	0.4	0.8	1.2	2.5
45～49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

注：1) 嫡出子についての数値である。
2) 総数は有配偶女子15～49歳で算出した。

(3) 出生コーホート別分析（世代による変化）

「コーホート」とは、ある期間に婚姻・出生等何らかの事象が発生した人を集団としてとらえたものであり、出生によるものを「出生コーホート」と呼ぶ。

合計特殊出生率は、各年において、「出生年の異なる集団」の年齢別出生率を合計したものである。合計特殊出生率を経年比較することによって、「時代による変化」を分析することができる。

これに対して、出生コーホートによる年齢別出生率の合計（累積出生率）は、「出生年の同じ集団」の出生率を合計したものであり、当該集団に属する一人の女性が、合計した年齢までの間に生む子どもの数を表す。累積出生率を比較することによって「世代による変化」を分析することができる。このような「出生年の同じ集団」に関する分析を出生コーホート別分析という。

（例）出生コーホートによる累積出生率

昭和7年生まれの集団は、昭和22年には「15歳」、昭和23年には「16歳」、…昭和56年には「49歳」になる。これらを追跡調査するのが、コーホートの考え方である。

調査年／母の年齢別 出生率

母の年齢	調査年				
	昭和22年	23年	24年	～	56年
15歳	0.0004	0.0004	0.0004		0.0001
16	0.0018	0.0022	0.0022		0.0006
17	0.0073	0.0087	0.0079		0.0021
18	0.0215	0.0245	0.0222		0.0053
19	0.0456	0.0545	0.0494		0.0116
20	0.0875	0.0975	0.0951		0.0221
⋮					
49	0.0019	0.0013	0.0007		0.0000
計	4.54	4.40	4.32		1.74

合計特殊出生率

↓
「出生コーホート」による
年齢別出生率

	昭和7年 生まれ
15歳	0.0004
16	0.0022
17	0.0079
18	0.0177
19	0.0333
20	0.0562
⋮	
49	0.0000

「出生コーホート」による
年齢別累積出生率

	昭和7年生まれ
15歳	0.0004 (0.0004)
16	0.0026 (15歳累積出生率 + 0.0022)
17	0.0106 (16 " + 0.0079)
18	0.0283 (17 " + 0.0177)
19	0.0616 (18 " + 0.0333)
20	0.1178 (19 " + 0.0562)
⋮	
49	2.0386 (48 " + 0.0000)

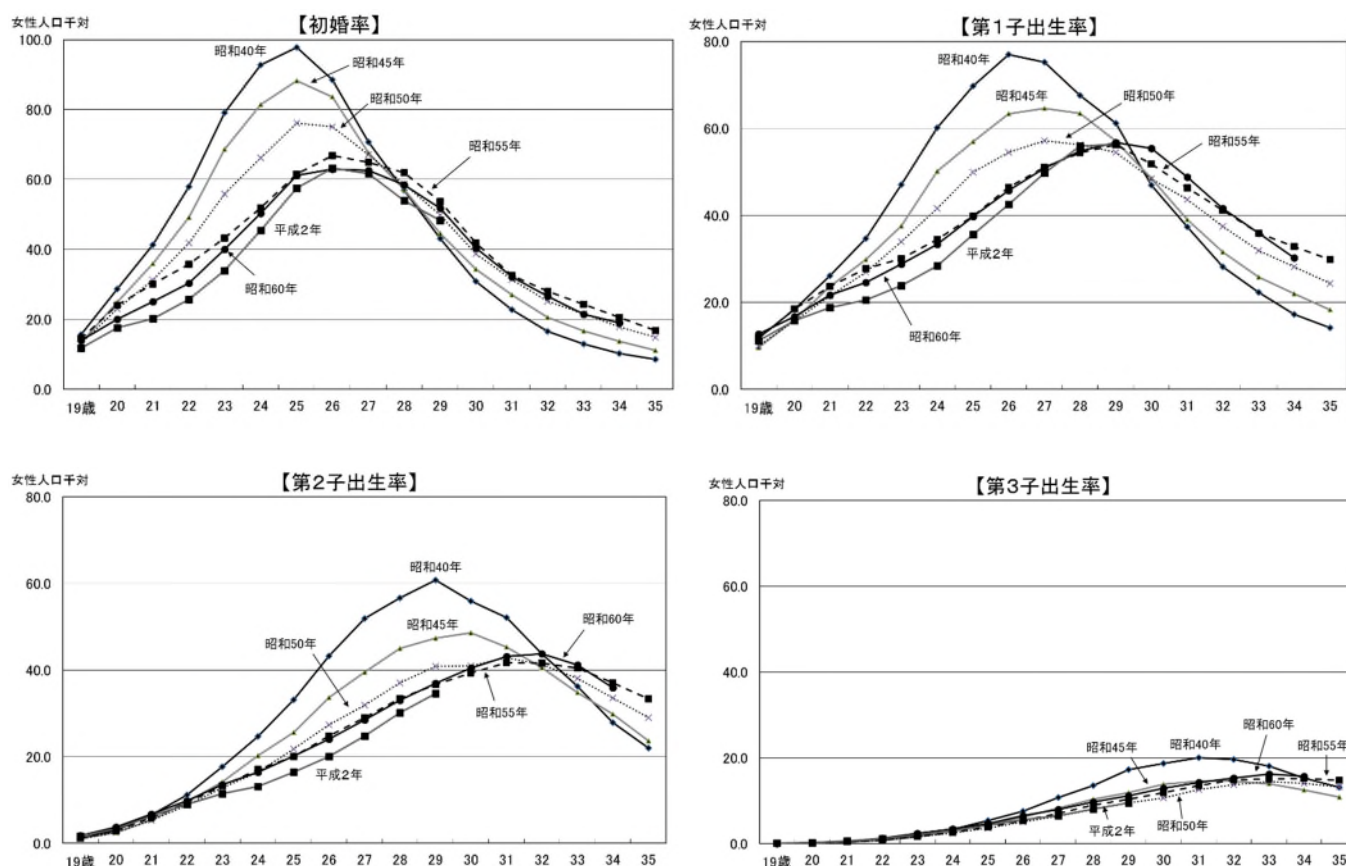
累積出生率によって世代ごとの出生率がわかる。

1) 出生コーホート別にみた年齢別初婚率・年齢別出生率

昭和40・45・50・55・60・平成2年生まれの女性について、婚姻・出生の状況をみると、昭和40年生まれの女性では、年齢別初婚率は「25歳」で高く、年齢別出生率は第1子が「26歳」、第2子が「29歳」、第3子が「31歳」で高くなっている。

世代を追うごとに年齢別初婚率と年齢別出生率のグラフは、それぞれ右下方向に動く傾向がみられる。右への動きは初婚年齢の上昇（晩婚化）と出生時年齢の上昇（晩産化）を示し、下への動きは初婚率と出生率のピークの低下を示している。昭和55年生まれ以降、年齢別初婚率は「26歳」、年齢別出生率は第1子で「29歳」で高く、晩婚化、晩産化が緩やかになっている。（図3・統計表2）

図3 出生コーホート別にみた年齢別初婚率・年齢別出生率 — 昭和40・45・50・55・60・平成2年生まれ —



注：初婚率は、各届出年に結婚生活に入ったものについての数値であり、届け出の前年以前に結婚生活に入ったものは含まれていない。

2) 出生コーホート別にみた累積出生率の分析

ア 年齢別累積出生率

昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれの女性について年齢別累積出生率をみると、世代を追うごとにグラフは右下に動く傾向がみられる。右への動きは出生時年齢の上昇（晩産化）を示し、下への動きは累積出生率の低下を示している。

一方、昭和 45 年生まれと 50 年生まれは 44 歳の累積出生率が同水準となっており、50 年生まれ、55 年生まれと 60 年生まれの間の差は小さくなっている。（図 4）

また、第 1 子に限って累積出生率をみても同様の傾向がみられる（図 5）。

図 4 出生コーホート別にみた年齢別累積出生率 — 昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれ —

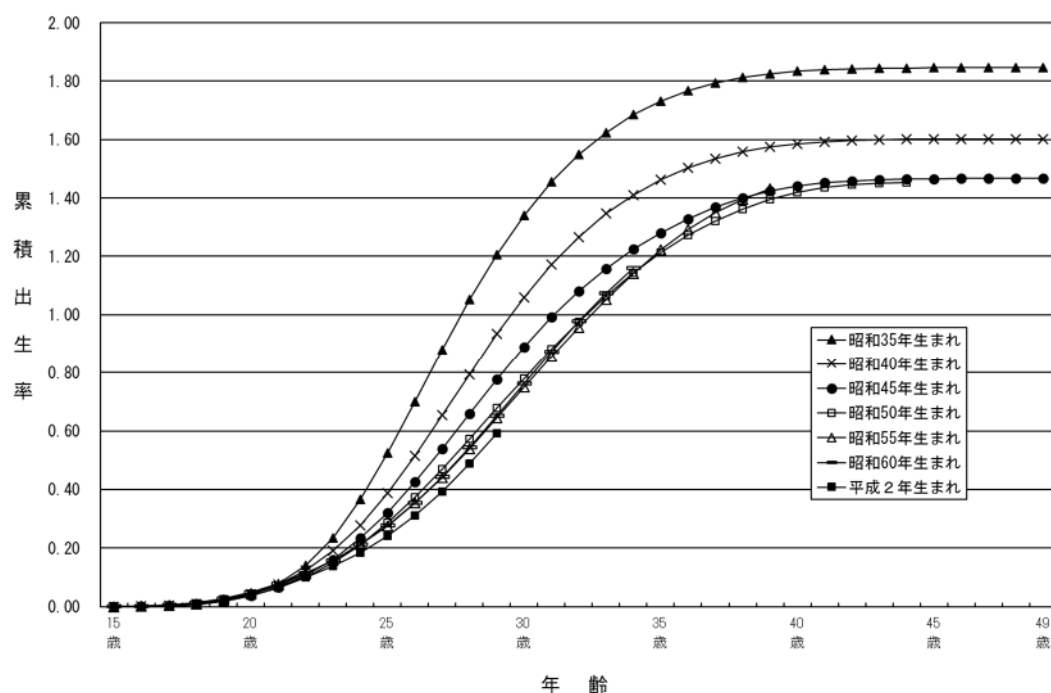
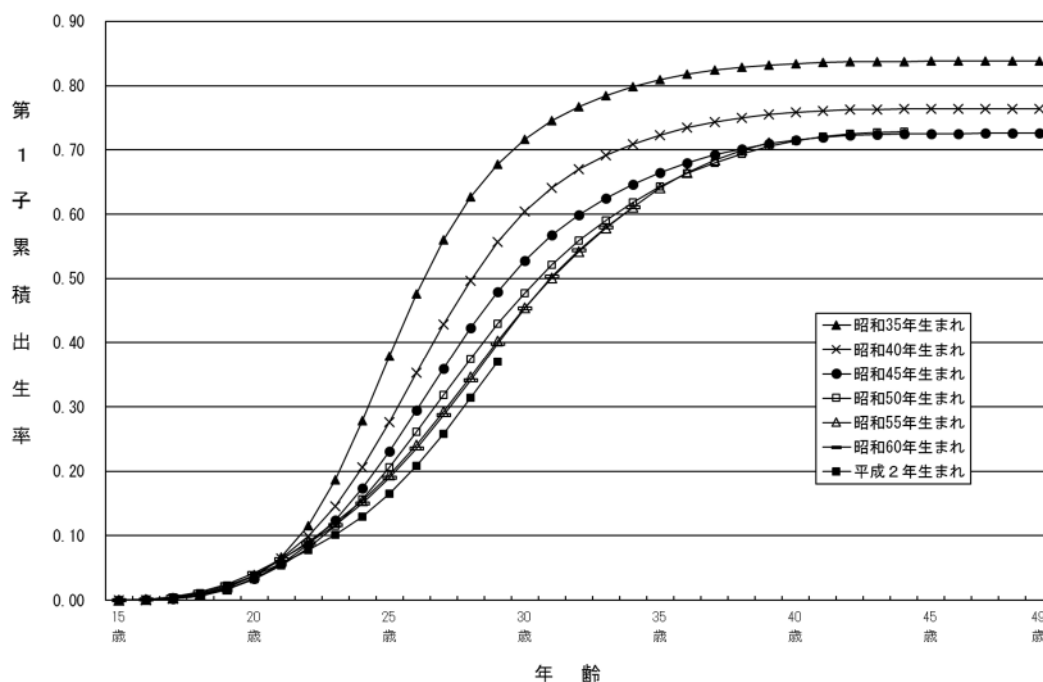


図 5 出生コーホート別にみた第 1 子年齢別累積出生率 — 昭和 35・40・45・50・55・60・平成 2 年生まれ —



イ 累積出生率の年齢階級別内訳

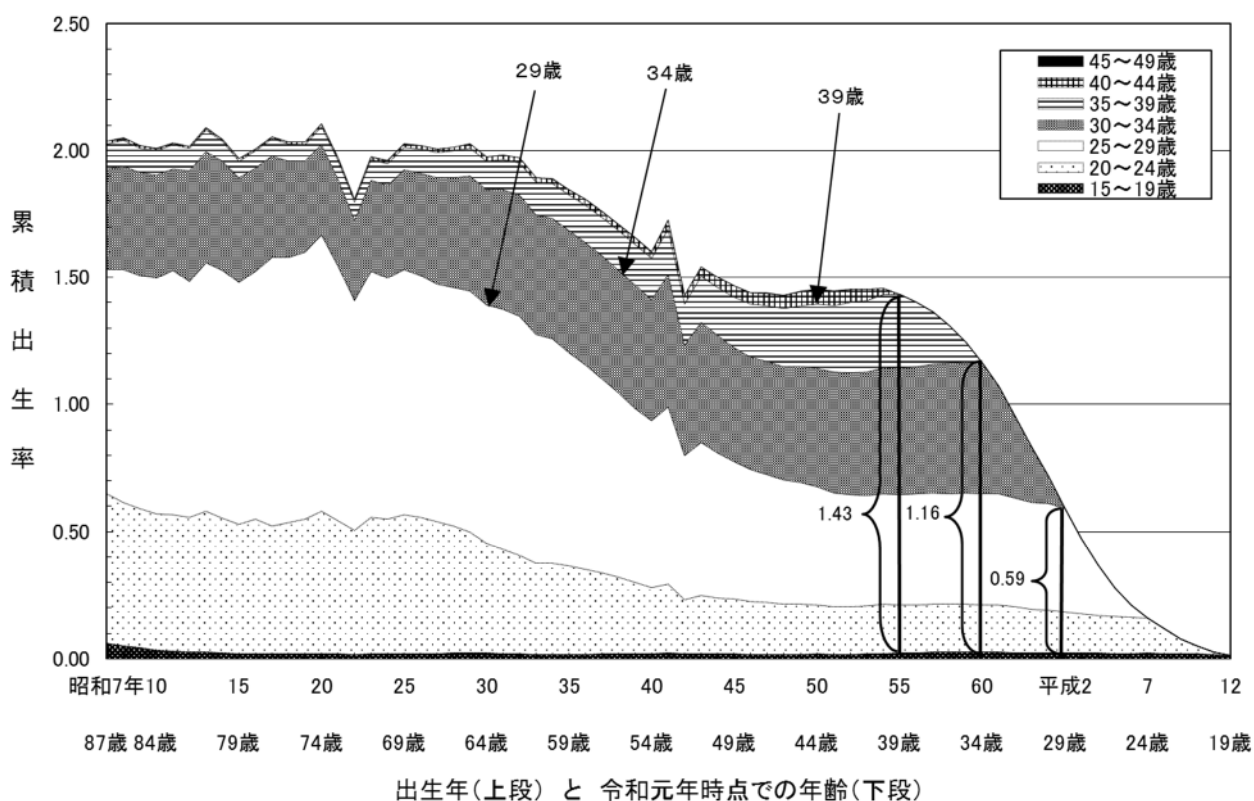
累積出生率を出生年別にみると、39 歳時点における累積出生率は、昭和 55 年生まれ（令和元年に 39 歳）の女性では 1.43 となっている。

34 歳時点における累積出生率は、昭和 60 年生まれ（令和元年に 34 歳）の女性では 1.16 となっている。

また、29 歳時点における累積出生率は、平成 2 年生まれ（令和元年に 29 歳）の女性では 0.59 となっている。

39 歳・34 歳・29 歳の各年齢における累積出生率は、昭和 30 年生まれ以降、低下傾向となっていたが、52 年生まれ以降は 60 年生まれまでほぼ横ばいで推移している。一方、29 歳の累積出生率をみると、60 年生まれ以降再び低下傾向となっている。（図 6・表 3）

図 6 出生コホート別にみた累積出生率（令和元年までの累積）



注：昭和 22 年生まれについては「第 1 次ベビーブーム」、41 年と 42 年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

表3 出生コホート別にみた累積出生率 ― 昭和7～平成7年生まれ ―

出生年		累積出生率					
		24歳	29歳	34歳	39歳	44歳	49歳
昭和 7 年生まれ (87歳)		0.65	1.53	1.93	2.03	2.04	2.04
8 (86)		0.62	1.53	1.94	2.04	2.05	2.05
9 (85)		0.59	1.51	1.91	2.01	2.02	2.02
10 (84)		0.57	1.50	1.90	2.00	2.01	2.01
11 (83)		0.57	1.53	1.93	2.02	2.03	2.03
12 (82)		0.56	1.48	1.92	2.01	2.02	2.02
13 (81)		0.58	1.56	2.00	2.08	2.09	2.09
14 (80)		0.55	1.53	1.96	2.04	2.05	2.05
15 (79)		0.53	1.48	1.89	1.96	1.97	1.97
16 (78)		0.55	1.52	1.93	2.00	2.01	2.01
17 (77)		0.52	1.58	1.98	2.05	2.06	2.06
18 (76)		0.53	1.58	1.96	2.03	2.04	2.04
19 (75)		0.55	1.60	1.96	2.03	2.03	2.03
20 (74)		0.58	1.67	2.02	2.09	2.10	2.10
21 (73)		0.54	1.54	1.89	1.96	1.97	1.97
22 (72)		0.50	1.41	1.73	1.80	1.81	1.81
23 (71)		0.56	1.52	1.88	1.97	1.98	1.98
24 (70)		0.55	1.50	1.86	1.95	1.96	1.96
25 (69)		0.57	1.53	1.92	2.02	2.03	2.03
26 (68)		0.56	1.51	1.91	2.01	2.02	2.02
27 (67)		0.54	1.47	1.89	1.99	2.01	2.01
28 (66)		0.52	1.46	1.89	2.00	2.01	2.01
29 (65)		0.50	1.45	1.90	2.01	2.03	2.03
30 (64)		0.45	1.39	1.85	1.96	1.98	1.98
31 (63)		0.43	1.38	1.85	1.96	1.98	1.98
32 (62)		0.41	1.35	1.83	1.95	1.97	1.97
33 (61)		0.38	1.27	1.75	1.88	1.89	1.89
34 (60)		0.38	1.26	1.73	1.87	1.89	1.89
35 (59)		0.37	1.20	1.68	1.82	1.84	1.85
36 (58)		0.35	1.15	1.64	1.79	1.81	1.81
37 (57)		0.34	1.10	1.59	1.74	1.76	1.76
38 (56)		0.32	1.05	1.53	1.68	1.71	1.71
39 (55)		0.30	0.99	1.47	1.63	1.66	1.66
40 (54)		0.28	0.94	1.41	1.57	1.60	1.60
41 (53)		0.29	0.99	1.51	1.69	1.73	1.73
42 (52)		0.23	0.80	1.24	1.40	1.43	1.43
43 (51)		0.25	0.85	1.32	1.50	1.54	1.54
44 (50)		0.24	0.81	1.27	1.46	1.50	1.50
45 (49)		0.23	0.78	1.23	1.42	1.47	1.47
46 (48)		0.23	0.75	1.18	1.39	1.44	
47 (47)		0.22	0.73	1.17	1.39	1.44	
48 (46)		0.22	0.70	1.15	1.38	1.43	
49 (45)		0.22	0.69	1.15	1.39	1.44	
50 (44)		0.21	0.68	1.14	1.40	1.45	
51 (43)		0.20	0.65	1.13	1.39		
52 (42)		0.20	0.64	1.12	1.40		
53 (41)		0.21	0.64	1.13	1.41		
54 (40)		0.21	0.65	1.14	1.43		
55 (39)		0.21	0.65	1.14	1.43		
56 (38)		0.21	0.65	1.15			
57 (37)		0.21	0.65	1.16			
58 (36)		0.21	0.65	1.16			
59 (35)		0.21	0.65	1.16			
60 (34)		0.21	0.65	1.16			
61 (33)		0.21	0.65				
62 (32)		0.20	0.63				
63 (31)		0.20	0.62				
平成 元 年生まれ (30)		0.19	0.61				
2 (29)		0.18	0.59				
3 (28)		0.18					
4 (27)		0.17					
5 (26)		0.17					
6 (25)		0.16					
7 (24)		0.16					

注：1) ()内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2) 空欄は計数を得られていない。

3) 昭和22年生まれについては「第1次ベビーブーム」、41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

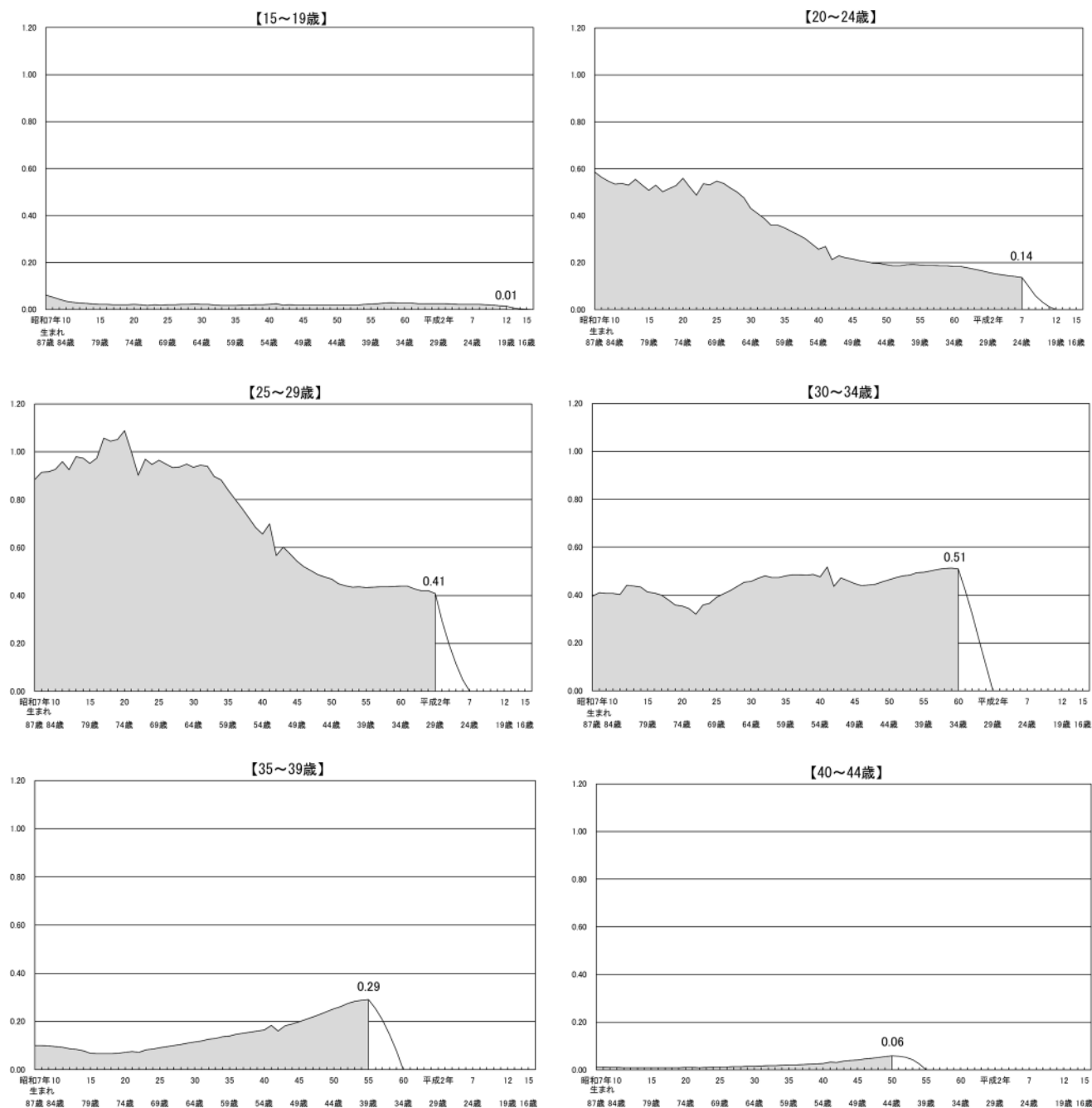
累積出生率の内訳を年齢階級別にみると、「20～24 歳」では近年緩やかに低下しており、平成 7 年生まれ（令和元年時点で 24 歳）の者では 0.14 となっている。

「25～29 歳」では、近年下げ止まりがみられ、平成 2 年生まれ（令和元年時点で 29 歳）の者では 0.41 となっている。

「30～34 歳」では、近年上昇傾向がみられ、昭和 60 年生まれ（令和元年時点で 34 歳）の者では 0.51 となっている。

「35～39 歳」では、上昇しており、昭和 55 年生まれ（令和元年時点で 39 歳）の者では 0.29 となっている。（図 7・統計表 3）

図 7 年齢階級別にみた出生コーホート別累積出生率の内訳



注：1) 白抜きは5年経過していない出生コーホートの令和元年までの実績である。

2) 昭和 22 年生まれについては「第 1 次ベビーブーム」、41 年と 42 年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

3) 横軸の年齢は令和元年時点の年齢である。

ウ 出生順位別累積出生率

出生年別の累積出生率を出生順位別にみると、40歳時点における第1子の累積出生率は昭和28年生まれの者では0.90であったが、46年生まれ（0.71）まで年々低下してきており、それ以後は横ばいとなっている。また、第2子以降の累積出生率も同様となっている。

30歳時点における第1子の累積出生率は昭和28年生まれの者では0.82であったが、年々低下してきており、51年生まれから62年生まれまで横ばいであったものの、平成元年生まれでは0.43となっている。（表4）

表4 出生コホート別にみた出生順位別累積出生率

－ 40歳（昭和28～54年生まれ）、30歳（昭和28～平成元年生まれ）－

【40歳】

出生順位	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)
合 計	2.01	2.02	1.97	1.97	1.96	1.88	1.88	1.83	1.79	1.75
第1子	0.90	0.90	0.88	0.88	0.88	0.85	0.85	0.83	0.82	0.81
第2子	0.78	0.78	0.76	0.76	0.75	0.72	0.71	0.70	0.68	0.66
第3子	0.28	0.29	0.28	0.29	0.28	0.27	0.27	0.26	0.25	0.23
第4子以上	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04

出生順位	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)
合 計	1.69	1.64	1.58	1.71	1.41	1.52	1.48	1.44	1.41	1.41
第1子	0.79	0.78	0.76	0.82	0.69	0.75	0.73	0.72	0.71	0.71
第2子	0.64	0.62	0.60	0.64	0.52	0.56	0.55	0.53	0.52	0.52
第3子	0.22	0.21	0.19	0.21	0.17	0.17	0.16	0.16	0.15	0.15
第4子以上	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03

出生順位	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)
合 計	1.40	1.41	1.42	1.41	1.43	1.44	1.46
第1子	0.70	0.71	0.71	0.71	0.71	0.72	0.72
第2子	0.51	0.51	0.52	0.51	0.52	0.52	0.53
第3子	0.15	0.15	0.16	0.16	0.16	0.16	0.17
第4子以上	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04

【30歳】

出生順位	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)
合 計	1.59	1.59	1.53	1.52	1.49	1.41	1.40	1.34	1.29	1.23
第1子	0.82	0.82	0.79	0.79	0.78	0.74	0.74	0.72	0.70	0.68
第2子	0.61	0.61	0.58	0.58	0.56	0.53	0.52	0.49	0.47	0.44
第3子	0.14	0.15	0.14	0.14	0.14	0.13	0.13	0.12	0.11	0.10
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)
合 計	1.17	1.12	1.06	1.13	0.91	0.97	0.93	0.89	0.85	0.83
第1子	0.65	0.63	0.60	0.65	0.53	0.57	0.55	0.53	0.51	0.50
第2子	0.42	0.39	0.37	0.39	0.31	0.33	0.31	0.29	0.28	0.27
第3子	0.10	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	0.06	0.06	0.06	0.05
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)	55 (39)	56 (38)	57 (37)
合 計	0.81	0.80	0.78	0.76	0.75	0.75	0.76	0.75	0.75	0.76
第1子	0.49	0.49	0.48	0.46	0.46	0.46	0.46	0.45	0.45	0.45
第2子	0.26	0.25	0.25	0.24	0.24	0.24	0.24	0.23	0.23	0.24
第3子	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

出生順位	58 (36)	59 (35)	60 (34)	61 (33)	62 (32)	63 (31)	平成元年 (30)
合 計	0.76	0.76	0.76	0.76	0.74	0.73	0.72
第1子	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.44	0.43
第2子	0.24	0.24	0.24	0.23	0.23	0.22	0.22
第3子	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05
第4子以上	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2）昭和41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

エ 子を生んでいない女性の割合

出生年別に「子を生んでいない女性の割合」（１から「第１子累積出生率」を引くことによって算出）をみると、40歳時点では、昭和28年生まれの者は10.2%であったが、世代を追うごとに上昇傾向にあり、46年生まれの者は29.4%となっている。それ以後はほぼ横ばいとなっている。

また30歳時点では、昭和28年生まれの者は18.0%であったが、世代を追うごとに上昇傾向にあり、48年生まれで51.0%と5割を超え、平成元年生まれは56.6%となっており、昭和48年以降に生まれた女性については、約半数が30歳時点で子を生んでいない。（表5）

なお、女性の未婚率も年を追うごとに上昇している（参考）。

表5 出生コーホート別にみた子を生んでいない女性の割合

－ 40歳（昭和28～54年生まれ）、30歳（昭和28～平成元年生まれ）－

【40歳】											(%)
	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)	
子を生んでいない 女性の割合	10.2	10.0	12.5	12.1	12.3	15.4	15.2	16.6	17.7	18.9	
	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)	
子を生んでいない 女性の割合	20.5	22.3	24.2	17.6	31.4	25.3	27.0	28.4	29.4	29.4	
	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)				
子を生んでいない 女性の割合	29.7	29.1	28.5	29.1	28.6	28.2	27.6				
【30歳】											(%)
	昭和28年 生まれ (66歳)	29 (65)	30 (64)	31 (63)	32 (62)	33 (61)	34 (60)	35 (59)	36 (58)	37 (57)	
子を生んでいない 女性の割合	18.0	18.3	21.1	21.2	22.1	25.6	26.1	28.4	30.4	32.4	
	38 (56)	39 (55)	40 (54)	41 (53)	42 (52)	43 (51)	44 (50)	45 (49)	46 (48)	47 (47)	
子を生んでいない 女性の割合	34.9	37.2	39.6	35.2	47.0	43.0	45.3	47.2	48.9	49.8	
	48 (46)	49 (45)	50 (44)	51 (43)	52 (42)	53 (41)	54 (40)	55 (39)	56 (38)	57 (37)	
子を生んでいない 女性の割合	51.0	51.5	52.3	53.5	54.0	54.2	53.9	54.5	54.5	54.6	
	58 (36)	59 (35)	60 (34)	61 (33)	52 (32)	63 (31)	平成元年 (30)				
子を生んでいない 女性の割合	54.7	54.7	54.6	54.7	55.5	56.3	56.6				

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2）昭和41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

参考 女性の未婚率

－ 40歳時点（平成7・12・17・22・27年）、30歳時点（昭和60・平成2・7・12・17・22・27年）－

【40歳】						(%)	【30歳】						(%)	
	平成7年 (64歳)	12 (59)	17 (54)	22 (49)	27 (44)		昭和60年 (64歳)	平成2 (59)	7 (54)	12 (49)	17 (44)	22 (39)	27 (34)	
女 性 の 未 婚 率	7.6	10.0	14.1	19.0	20.1		女 性 の 未 婚 率	14.0	18.9	26.2	33.9	39.9	41.5	40.4

注：1）（ ）内の年齢は令和元年時点の年齢である。

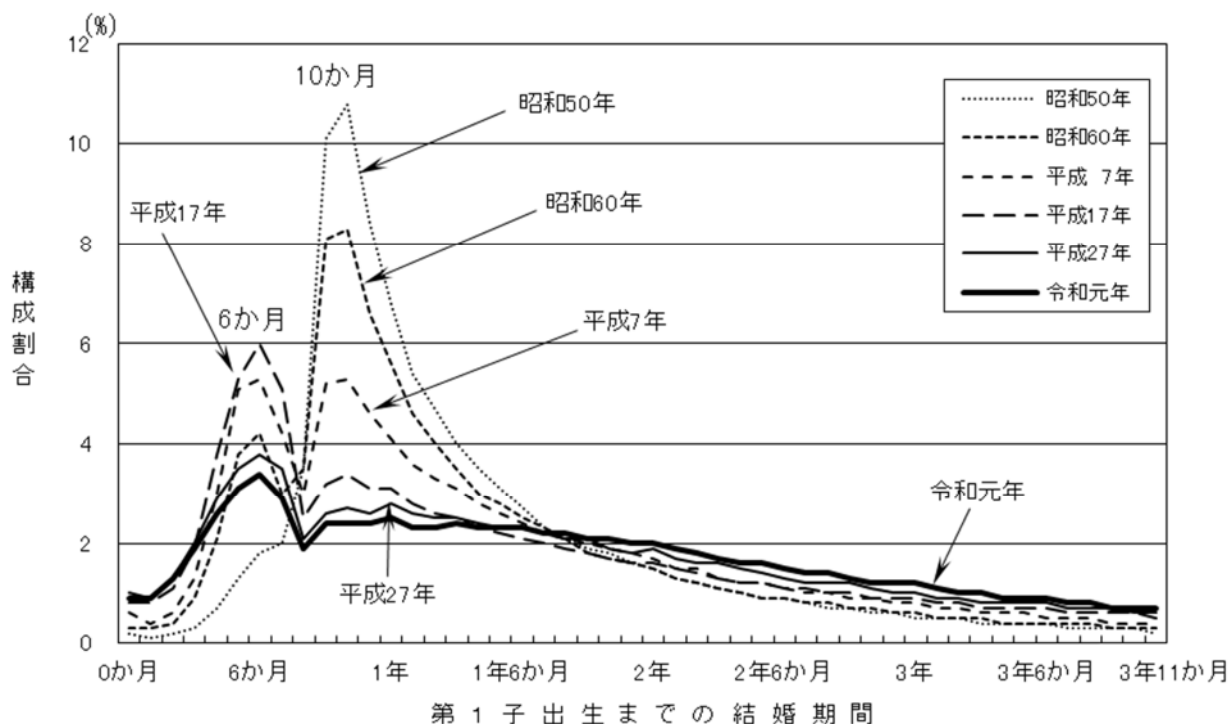
2）国勢調査（総務省統計局）に基づいて作成。

2 出生動向の多面的分析

(1) 父母の結婚期間からみた出生

第1子出生までの結婚期間（出生届における「同居をはじめたとき」から「生まれたとき」までの期間）別の出生構成割合をみると、昭和50年は10か月がピークであったが、60年になると6か月が多くなり、相対的に10か月は少なくなった。平成7年には6か月と10か月で出生構成割合はほぼ同じとなり、17、27、令和元年では6か月がピークになっている。平成17年から令和元年にかけて構成割合のピークが、低下してきているのは、第1子出生までの結婚期間の長い割合が多くなっているためである。（図8・統計表4）

図8 第1子出生までの結婚期間別にみた出生構成割合 — 昭和50・60・平成7・17・27・令和元年 —



- 注：1) 嫡出第1子についての数値である。
 2) 結婚期間不詳を除いた総数に対する構成割合である。
 3) 0か月とは生まれた月と同居を始めた月が同じ場合である。

(2) 結婚期間が妊娠期間より短い出生の傾向

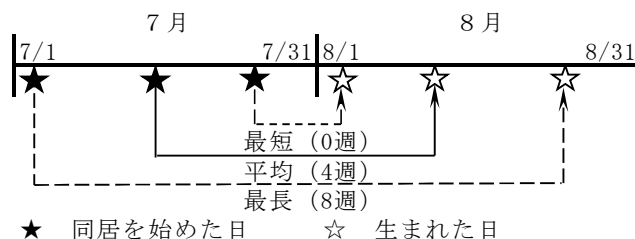
出生状況を見ると、第1子出生までの父母の結婚期間は6か月がピークとなっている。そこで、嫡出第1子について結婚期間が妊娠期間より短い出生について考察する。

ここでは、結婚期間が妊娠期間より短い出生について、以下の《仮定》に基づいて算出。

《仮定》 結婚期間が妊娠期間より短い出生の考え方

- この報告書では、
 - ① 妊娠週数の数え方から、月経周期が28日周期の場合で、排卵時点で既に妊娠2週目にあたること
 - ② 婚姻の届出や同居の開始がハネムーン後になるケースもあることを考慮して、

「結婚週数<妊娠週数-3週」（＝「妊娠週数≥結婚週数+4週」）
 で出生した場合を結婚期間が妊娠期間より短い出生と考えることとした。
- ただし、結婚期間は、人口動態統計出生票より
 「生まれた年月-同居を始めた年月」
 で算出しており、月単位でしか把握できないため、結婚期間（月数）に対応する実際の結婚週数には幅がある。
 （例：結婚期間が1か月の場合、実際の結婚週数は、最短で0週、最長で8週、平均で4週となる。（下図参照））



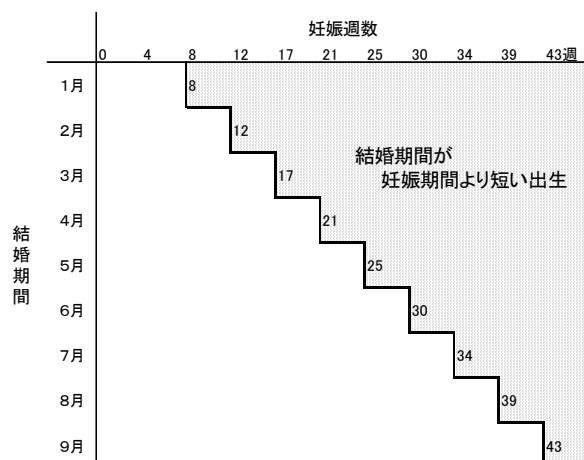
- 結婚期間が妊娠期間より短い出生数の試算においては、結婚期間に対する平均的な結婚週数に基づき算出した。（具体的には、下表の区分について算出）
 ただし、上記のように実際の結婚週数には幅があることから、試算結果についてもその上下に一定の幅があることに留意する必要がある。

結婚期間が妊娠期間より短い出生 に計上するケース（仮定）

結婚期間	妊娠週数
1月	8週以上
2月	12週
3月	17週
4月	21週
5月	25週
6月	30週
7月	34週
8月	39週
9月	43週

注：平均的な結婚週数+4週以上
で算出している。

イメージ図



注：出生届における「同居を始めた年月」は、結婚式を挙げたとき、または、同居を始めたときのうち早い方を記入することとなっている。

1) 結婚期間が妊娠期間より短い出生の年次推移

前述の《仮定》に基づき算出した「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合をみると、平成14年をピークに、近年は低下傾向にある（表6・図9・統計表5）。

なお、この割合は結婚期間が妊娠期間より短い出生の嫡出第1子出生に占める割合であって、婚姻に占める割合ではないことに注意する必要がある。

表6 「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の数及び「嫡出第1子出生」に占める割合

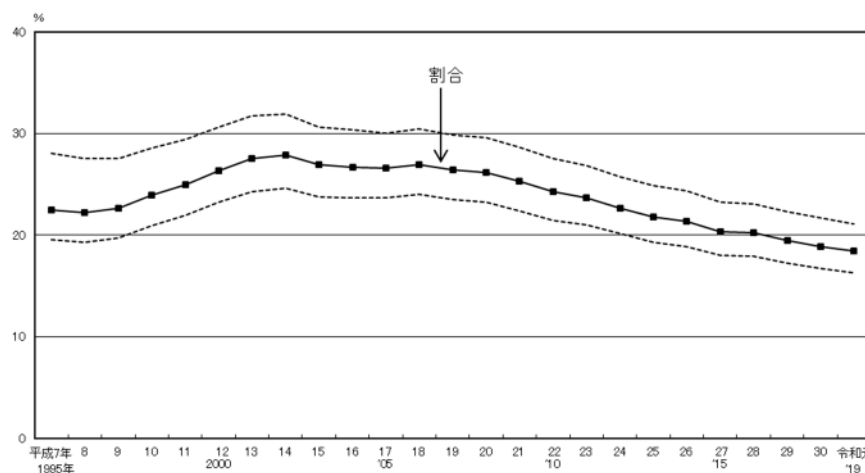
— 平成7～令和元年 —

年次	嫡出第1子 出生数 (千人)	結婚期間が妊娠期間より短い出生	
		出生数 (千人)	嫡出第1子出生に 占める割合 (%)
平成 7 年	557	125	22.5
8	563	125	22.2
9	559	126	22.6
10	571	136	23.9
11	565	141	25.0
12	569	150	26.3
13	559	154	27.5
14	555	155	27.9
15	531	143	26.9
16	522	139	26.7
17	497	132	26.6
18	507	137	26.9
19	503	133	26.4
20	500	131	26.2
21	494	125	25.3
22	491	119	24.3
23	475	113	23.7
24	465	105	22.6
25	461	101	21.8
26	453	97	21.3
27	457	93	20.3
28	439	89	20.2
29	420	82	19.5
30	407	77	18.9
令和 元	382	70	18.4

注：嫡出第1子出生数は、結婚期間不詳を除いた数値である。

図9 「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合

— 平成7～令和元年 —



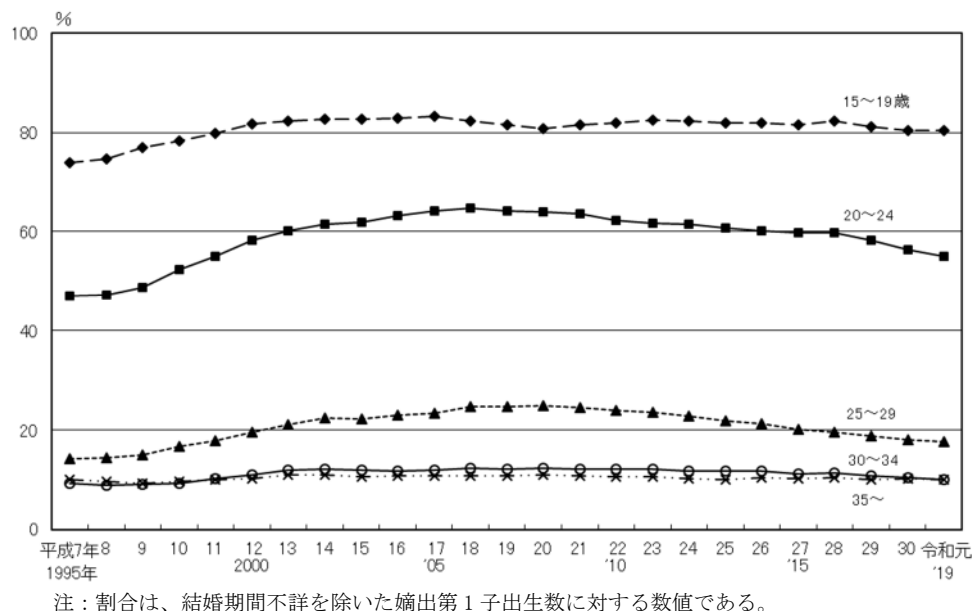
注：点線は結婚期間を月単位でしか把握できないことにより想定される幅である。

2) 母の年齢階級別にみた結婚期間が妊娠期間より短い出生

「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合を母の年齢階級別にみると、令和元年には「15～19歳」で8割、「20～24歳」で6割、「25～29歳」で2割、30歳以降で1割となっており、年齢層が若いほど高くなっている。近年は20歳代が緩やかに低下している。(図10)

図10 母の年齢階級別にみた「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合

— 平成7～令和元年 —

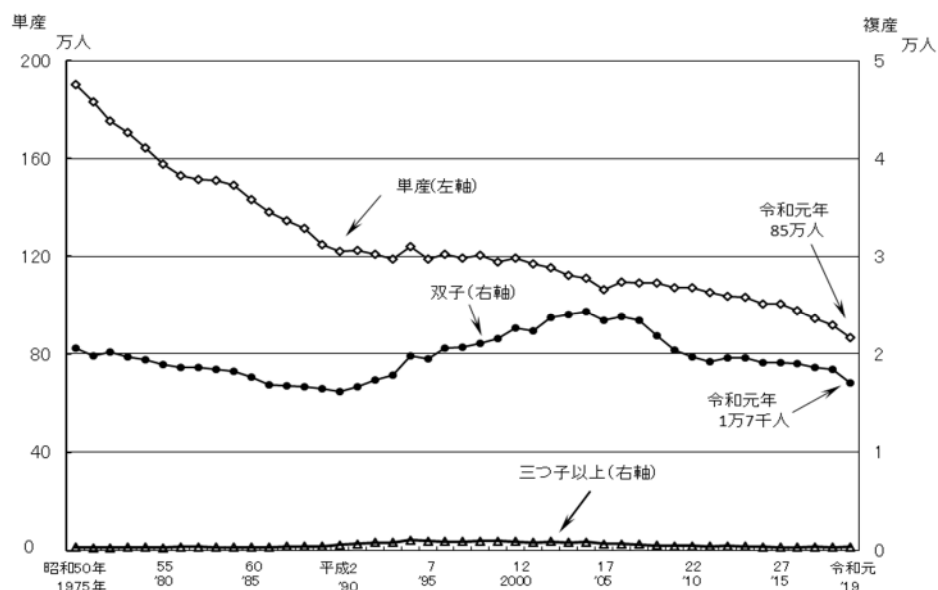


(3) 単産－複産の種類別にみた出生

単産－複産の種類別に出生数をみると、ほとんどは単産である。双子は平成16年まで増加傾向がみられたが、17年以降は減少傾向となっている。

令和元年は単産の出生数が85万人、双子の出生数が1万7千人となっている。(図11)

図11 単産－複産の種類別にみた出生数 — 昭和50～令和元年 —

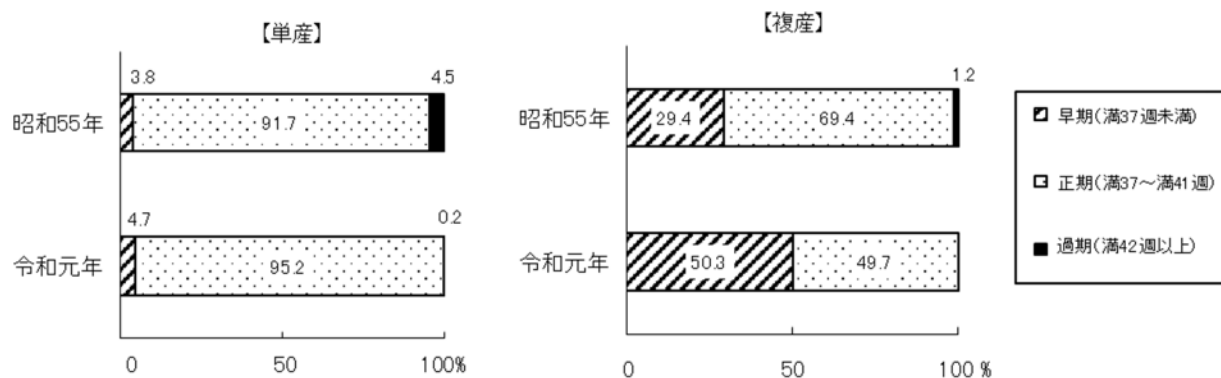


(4) 妊娠期間別にみた出生

妊娠期間（早期－正期－過期）別の出生構成割合を昭和55年と令和元年とで比較すると、単産はともに「正期」で9割以上を占めている。昭和55年には「過期」が4.5%あったが、令和元年には0.2%に低下している。

複産の場合、昭和55年は「早期」が3割、「正期」が7割であったが、令和元年は「早期」が「正期」を上回り、「早期」の割合が大幅に上昇している。（図12）

図12 妊娠期間（早期－正期－過期）別出生構成割合 — 昭和55・令和元年 —



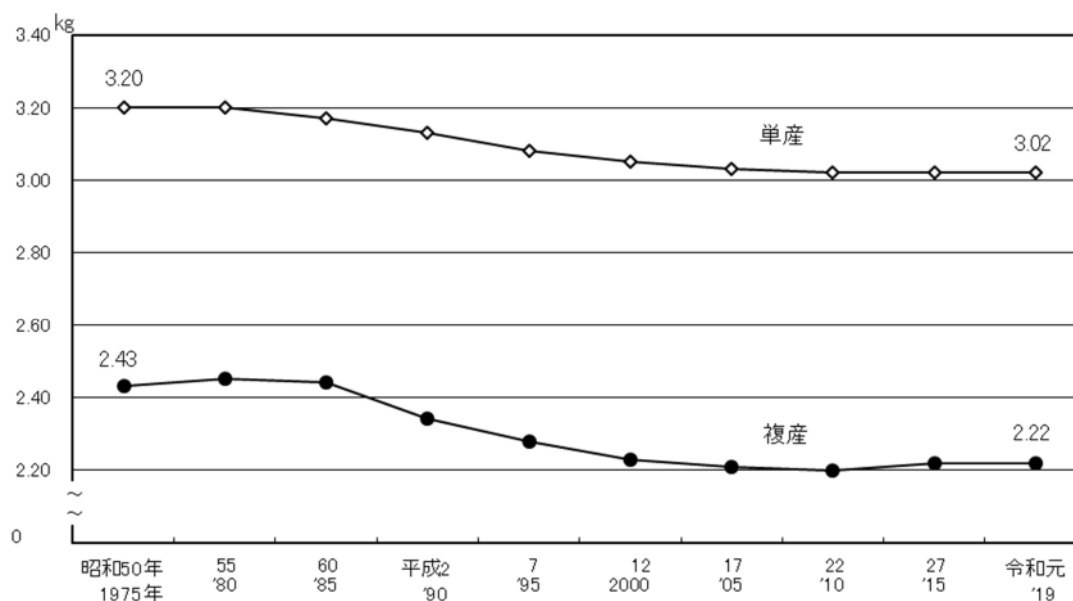
注：1) 割合は、妊娠期間不詳を除いた総数に対する数値である。
 2) 単産とは単胎で生まれた出生であり、死産は含まない。
 また、複産とは双子・三つ子等多胎で生まれた出生であり死産は含まない。

(5) 出生時の体重

出生時の体重を単産－複産別にみると、単産の平均体重は、昭和50年には3.20 kgであったが年々減少しており、令和元年は3.02 kgと0.18 kg減少している。また、複産も同様に、昭和50年の2.43 kgから、令和元年には2.22 kgと0.21 kg減少している。（図13）

出生時の体重が2.5 kg未満の割合をみると、単産では昭和50年には4.6%であったが年々上昇し、令和元年には8.1%となっている。複産の2.5 kg未満の出生は多く、昭和50年は52.5%と半数だったが、令和元年には71.4%となっている。（表7）

図13 単産－複産別出生時の平均体重 — 昭和50～令和元年 —



注：1) 単産とは単胎で生まれた出生であり、死産は含まない。また、複産とは双子・三つ子等多胎で生まれた出生であり、死産は含まない。
 2) 平成2年までは100グラム単位で把握していたため出生子の出生時平均体重は算出平均値に0.05kgを加えた。

表7 出生時の平均体重及び体重別出生数及び出生構成割合 — 昭和50～令和元年 —

年次	平均体重 (kg)	総 数	実 数			割合 (%)		
			2.5kg 未満	1.5kg 未満	1.0kg 未満	2.5kg 未満	1.5kg 未満	1.0kg 未満
単 産								
昭和 50 年	3.20	1 880 507	85 986	5 317	877	4.6	0.3	0.0
55	3.20	1 557 694	71 830	5 089	1 290	4.6	0.3	0.1
60	3.17	1 413 629	69 051	5 831	1 868	4.9	0.4	0.1
平成 2	3.13	1 204 855	67 654	5 293	1 853	5.6	0.4	0.2
7	3.08	1 166 596	75 982	5 627	2 042	6.5	0.5	0.2
12	3.05	1 166 926	86 522	5 803	2 169	7.4	0.5	0.2
17	3.03	1 038 400	83 694	6 140	2 451	8.1	0.6	0.2
18	3.02	1 068 135	86 649	6 284	2 741	8.1	0.6	0.3
19	3.02	1 065 737	87 606	6 469	2 707	8.2	0.6	0.3
20	3.02	1 068 797	88 140	6 353	2 600	8.2	0.6	0.2
21	3.02	1 049 142	87 281	6 228	2 566	8.3	0.6	0.2
22	3.02	1 051 104	88 151	6 333	2 679	8.4	0.6	0.3
23	3.02	1 031 188	85 912	6 259	2 586	8.3	0.6	0.3
24	3.02	1 017 165	84 688	6 179	2 597	8.3	0.6	0.3
25	3.02	1 009 811	83 997	6 157	2 510	8.3	0.6	0.2
26	3.02	984 119	81 787	6 108	2 580	8.3	0.6	0.3
27	3.07	986 253	81 352	5 851	2 490	8.2	0.6	0.3
28	3.07	957 874	78 400	5 499	2 352	8.2	0.6	0.2
29	3.07	927 105	75 723	5 387	2 192	8.2	0.6	0.2
30	3.07	899 661	72 850	5 260	2 323	8.1	0.6	0.3
令和 元	3.02	847 837	69 040	5 051	2 172	8.1	0.6	0.3
複 産								
昭和 50 年	2.43	20 933	10 981	1 004	163	52.5	4.8	0.8
55	2.45	19 195	9 829	883	200	51.2	4.6	1.0
60	2.44	17 948	9 123	968	286	50.8	5.4	1.6
平成 2	2.34	16 730	9 678	1 225	438	57.8	7.3	2.6
7	2.28	20 468	13 130	1 686	568	64.1	8.2	2.8
12	2.23	23 621	16 366	2 097	697	69.3	8.9	3.0
17	2.21	24 130	17 578	2 057	664	72.8	8.5	2.8
18	2.21	24 539	17 910	2 089	719	73.0	8.5	2.9
19	2.21	24 081	17 558	2 056	707	72.9	8.5	2.9
20	2.21	22 359	16 339	1 929	693	73.1	8.6	3.1
21	2.20	20 894	15 390	1 775	584	73.7	8.5	2.8
22	2.20	20 201	14 898	1 753	553	73.7	8.7	2.7
23	2.20	19 619	14 466	1 683	534	73.7	8.6	2.7
24	2.20	20 067	14 623	1 806	602	72.9	9.0	3.0
25	2.21	20 006	14 627	1 731	589	73.1	8.7	2.9
26	2.22	19 490	13 987	1 585	497	71.8	8.1	2.6
27	2.22	19 468	13 856	1 660	594	71.2	8.5	3.1
28	2.23	19 368	13 702	1 517	539	70.7	7.8	2.8
29	2.23	19 041	13 637	1 517	468	71.6	8.0	2.5
30	2.23	18 739	13 419	1 482	493	71.6	7.9	2.6
令和 元	2.22	17 402	12 422	1 416	474	71.4	8.1	2.7

注：1) 構成割合は出生時の平均体重不詳を含んだ総数に対する数値である。

2) 単産とは単胎で生まれた出生であり、死産は含まない。また、複産とは双子・三つ子等多胎で生まれた出生であり、死産は含まない。

3) 平成2年までは100グラム単位で把握していたため出生子の出生時平均体重は算出平均値に0.05kgを加えた。

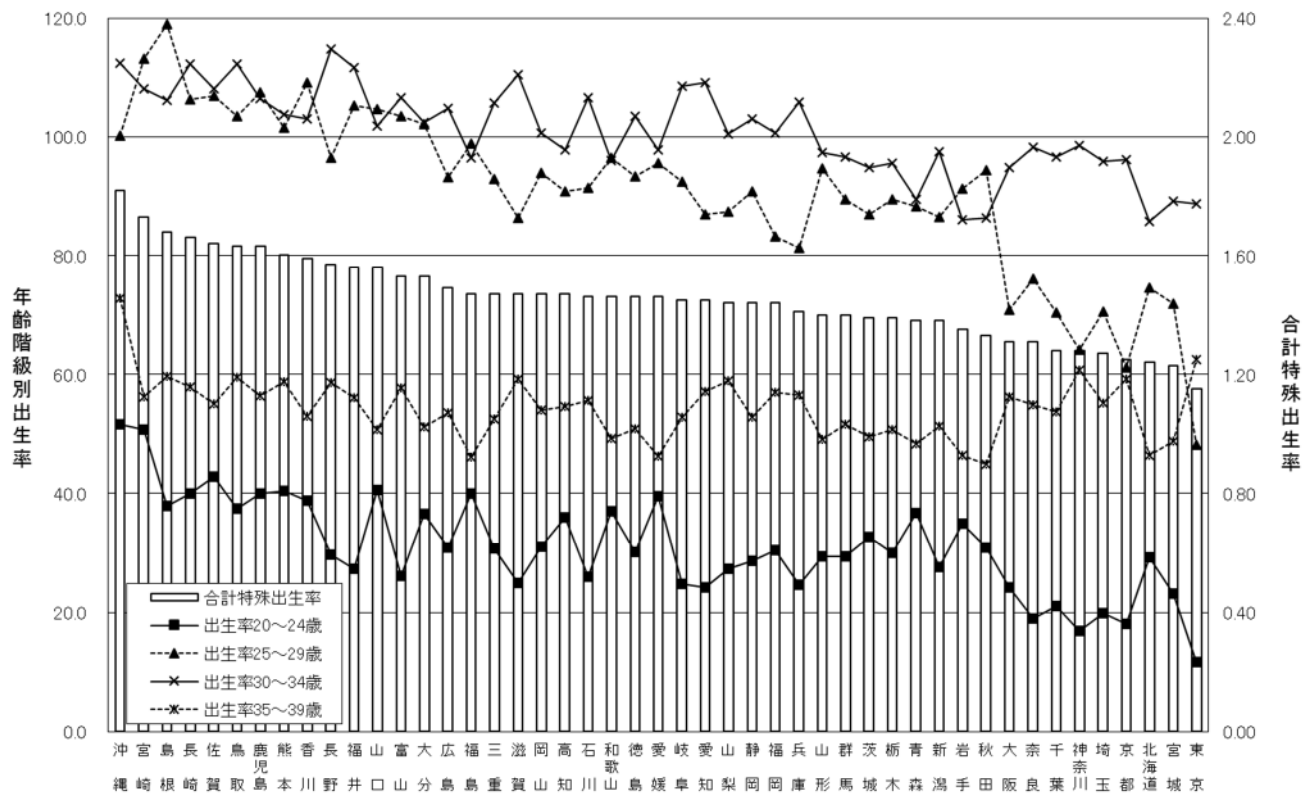
3 都道府県別にみた出生

(1) 年齢階級別出生率・合計特殊出生率

母の年齢階級別出生率を都道府県別にみると、38 の都道府県で「30～34 歳」の出生率が「25～29 歳」の出生率を上回っている。

合計特殊出生率の最も高い沖縄県は、年齢階級別出生率では「20～24 歳」及び「35～39 歳」で上位 1 位、「30～34 歳」で上位 2 位となっている。一方、最も低い東京都は、「20～24 歳」及び「25～29 歳」で下位 1 位、「30～34 歳」で下位 4 位である反面、「35～39 歳」では上位 2 位となっている。(図 14・表 8・統計表 6)

図 14 都道府県別にみた母の年齢階級別出生率・合計特殊出生率 — 令和元年 —



注：数値の算出には、5 歳階級別の女性の日本人人口を用いた。

表 8 母の年齢階級別出生率・合計特殊出生率の都道府県上・下 5 位 — 令和元年 —

順位		年齢階級別出生率								合計特殊出生率	
		20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳			
		全 国	24.9	全 国	77.2	全 国	98.5	全 国	55.8	全 国	1.36
上位	1 位	沖 縄	51.6	島 根	118.9	長 野	114.9	沖 縄	72.7	沖 縄	1.82
	2 位	宮 崎	50.7	宮 崎	113.2	沖 縄	112.5	東 京	62.5	宮 崎	1.73
	3 位	佐 賀	42.8	香 川	109.1	鳥 取	112.2	神奈川	60.6	島 根	1.68
	4 位	山 口	40.6	鹿児島	107.5	長 崎	112.2	島 根	59.7	長 崎	1.66
	5 位	熊 本	40.4	佐 賀	106.9	福 井	111.7	鳥 取	59.5	佐 賀	1.64
下位	1 位	東 京	11.7	東 京	48.2	北海道	85.7	秋 田	44.9	東 京	1.15
	2 位	神奈川	16.9	京 都	61.1	岩 手	86.0	福 島	46.0	宮 城	1.23
	3 位	京 都	18.0	神奈川	64.0	秋 田	86.4	愛 媛	46.2	北 海 道	1.24
	4 位	奈 良	19.0	千 葉	70.4	東 京	88.8	岩 手	46.4	京 都	1.25
	5 位	埼 玉	19.9	埼 玉	70.6	宮 城	89.1	北 海 道	46.4	埼 玉	1.27

注：1) 数値の算出には、全国値は各歳別の女性の日本人人口、都道府県値は 5 歳階級別の女性の日本人人口を用いた。
2) 合計特殊出生率の全国値は母の年齢 15～49 歳の各歳における出生率の合計であり、都道府県の値は年齢 5 歳階級における出生率の 5 倍の合計である。

(2) 合計特殊出生率の年齢階級別寄与

都道府県別合計特殊出生率について令和元年における対前年変化を「15～24 歳」、「25～29 歳」、「30～34 歳」及び「35～49 歳」の年齢階級に寄与分解した。合計特殊出生率が前年と比べて上昇している都道府県では「25～29 歳」がプラスに寄与している。また、「25～29 歳」と「30～34 歳」の寄与の大きさを比較すると、「25～29 歳」の方が大きいところと「30～34 歳」の方が大きいところが半々である。(図 15-1)

また、平成 30 年及び 29 年においては、「25～29 歳」と「30～34 歳」の寄与の大きさを比較すると、「25～29 歳」の方が大きいところの方が多い(図 15-2・図 15-3)。

図 15-1 都道府県別にみた合計特殊出生率の対前年変化と年齢階級別寄与 — 令和元年 —

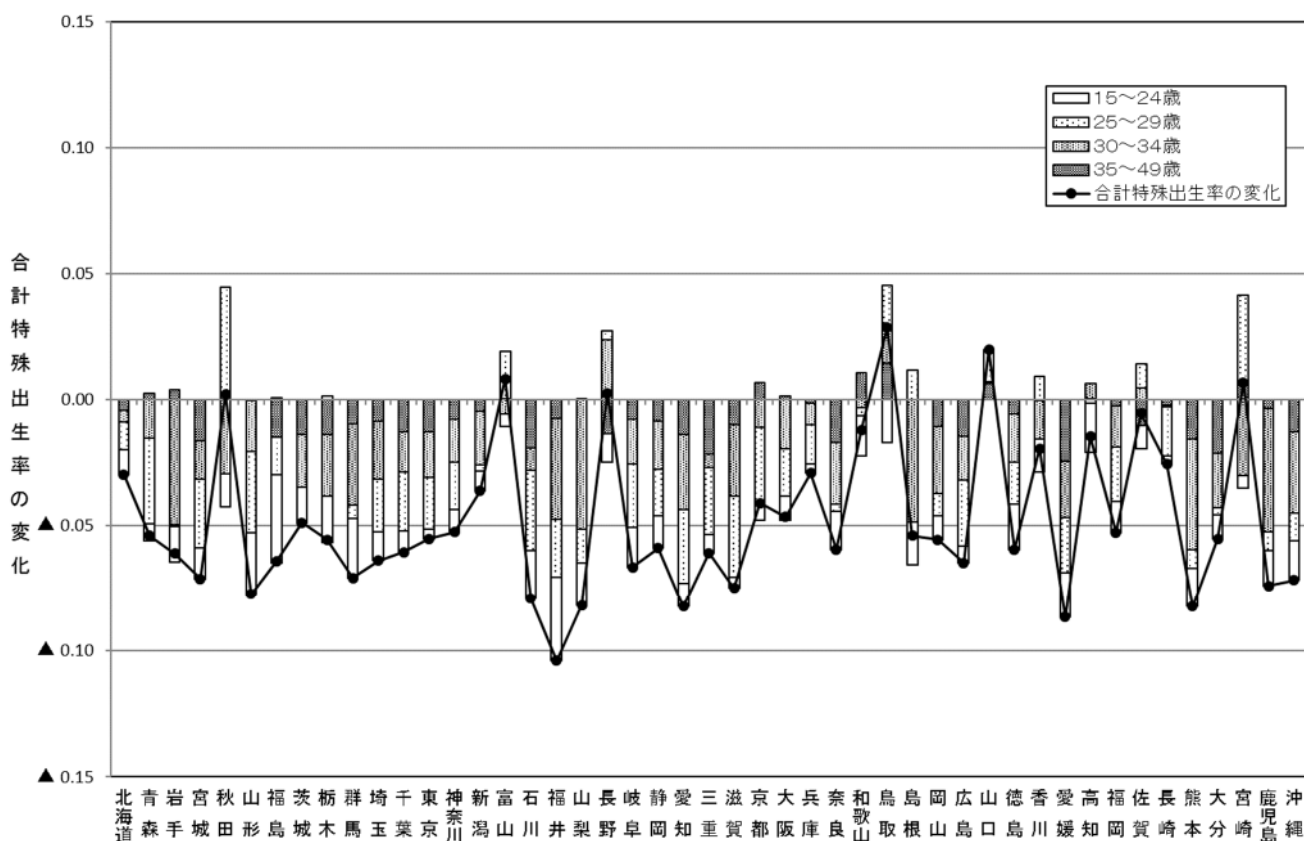


図 15-2 都道府県別にみた合計特殊出生率の対前年変化と年齢階級別寄与 ― 平成 30 年 ―

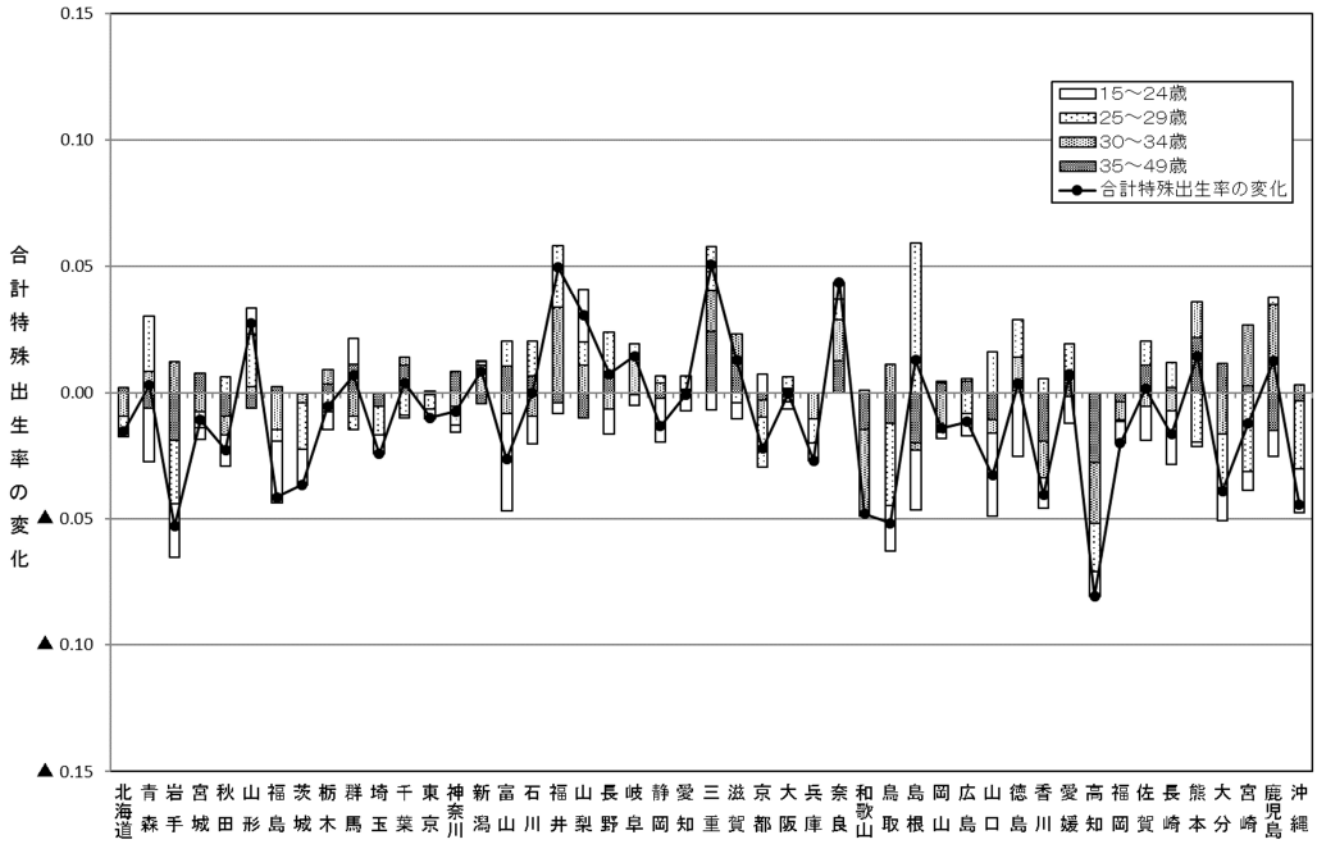
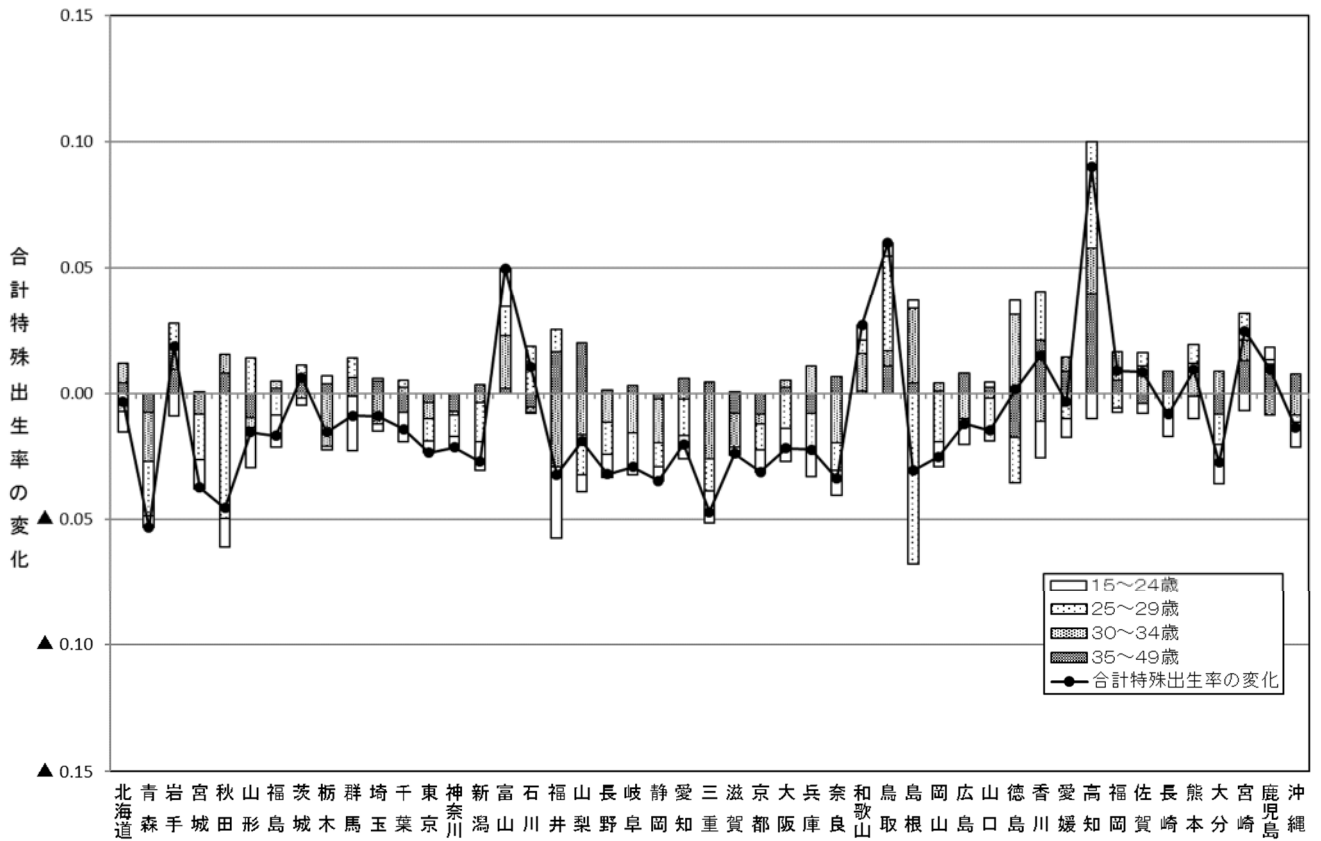


図 15-3 都道府県別にみた合計特殊出生率の対前年変化と年齢階級別寄与 ― 平成 29 年 ―



(3) 結婚期間が妊娠期間より短い出生

令和元年の「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合を都道府県別にみると、東北地方及び九州地方では高率の県が多く、関東地方、中部地方及び近畿地方で低率の都府県が多くなっている（表9）。

表9 都道府県別にみた「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の
「嫡出第1子出生」に占める割合 — 令和元年 —

		(%)	
都道府県	割 合	都道府県	割 合
全 国	18.4		
北海道	20.7	京 都	16.6
青 森	24.6	大 阪	19.6
岩 手	23.3	兵 庫	17.0
宮 城	20.3	奈 良	16.6
秋 田	20.5	和歌山	21.1
山 形	22.7	鳥 取	21.4
福 島	24.8	島 根	20.1
茨 城	22.9	岡 山	20.7
栃 木	19.8	広 島	18.5
群 馬	20.1	山 口	21.4
埼 玉	16.4	徳 島	18.0
千 葉	16.6	香 川	18.6
東 京	13.9	愛 媛	21.6
神奈川	14.7	高 知	21.0
新 潟	20.0	福 岡	22.4
富 山	17.1	佐 賀	27.3
石 川	18.3	長 崎	24.8
福 井	21.2	熊 本	26.6
山 梨	21.0	大 分	22.1
長 野	17.7	宮 崎	24.9
岐 阜	18.5	鹿児島	23.2
静 岡	18.5	沖 縄	30.8
愛 知	15.8		
三 重	18.7		
滋 賀	17.1		

参考

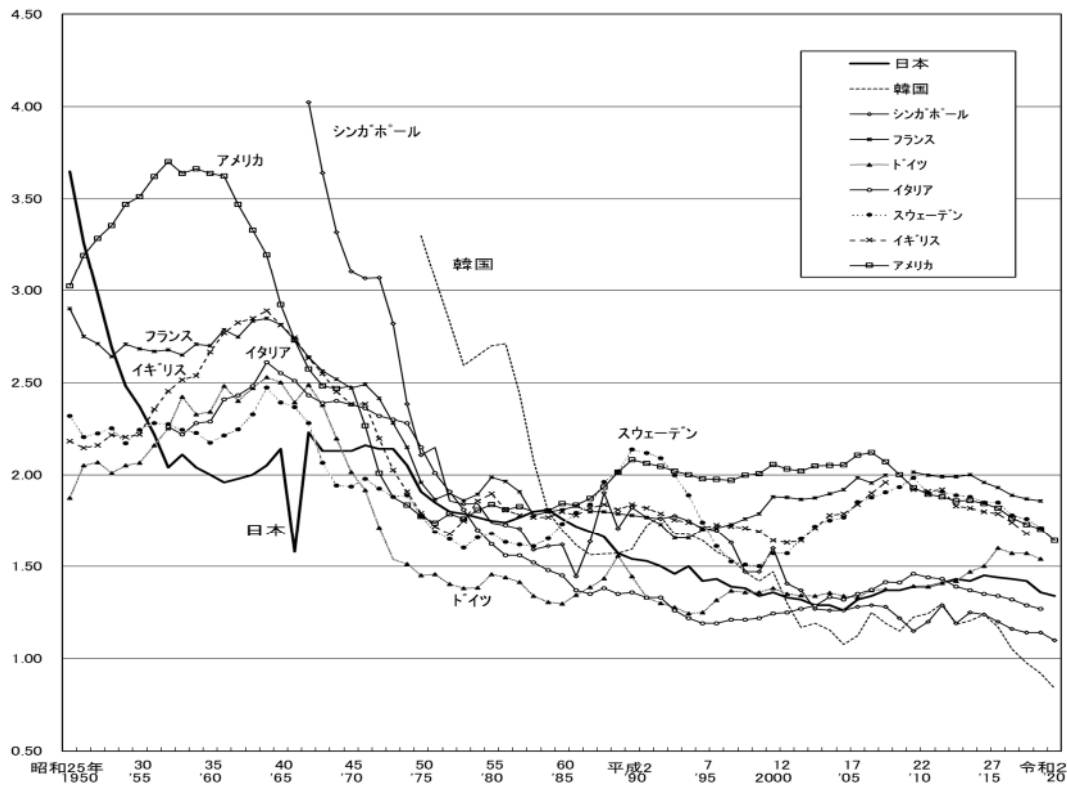
国際比較

韓国、シンガポール、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、イギリス及びアメリカについて合計特殊出生率の年次推移をみると、ヨーロッパの5か国は、1960年代後半から1970年代前半にかけて低下傾向がみられた後、フランス、スウェーデン及びイギリスは上下変動しながらも2000年以降2010年頃まで上昇したものの、その後低下している。一方、ドイツ、イタリアは1.2前後の低い出生率から回復し、ドイツは1.5台で推移、イタリアは再び低下している。

アメリカは、1960年代から1970年代前半にかけて急激に低下した後、1.8台で推移していたが、1990年代には2台まで回復したものの、2007年以後低下している。

一方、韓国及びシンガポールは、時期に差があるものの、合計特殊出生率3～4という高い水準からの急激な低下がみられた後、1に近い水準で推移している。(図16・表10)

図 16 合計特殊出生率の国際比較 — 昭和25～令和2年 —



注：1) 日本の2020年は概数、韓国、アメリカの2020年及びフランスの2019年は暫定値である。
2) 1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。
3) 1981年以前のイギリスは、*イングランド・ウェールズ*の数値である。
資料：当該国からの資料による。

U.N. Demographic Yearbook 2019、Eurostat Statistics Database による。

表 10 合計特殊出生率の国際比較 — 最新年次 —

国及び地域名		最新年次		合計特殊出生率
日本		2020	令和 2 年	1.34
韓国	1)	2020	2	* 0.84
シンガポール	1)	2020	2	1.10
フランス	2)	2019	元	* 1.86
ドイツ	2)	2019	元	1.54
イタリア	2)	2019	元	1.27
スウェーデン	2)	2019	元	1.71
イギリス	2)	2018	平成 30	1.68
アメリカ	1)	2020	令和 2	* 1.64

注：日本の数値は概数、*印は暫定値である。
資料：1) 当該国からの資料による。
2) Eurostat Statistics Database による。

母の年齢階級別に出生率（女性人口千対）の国際比較をみると「25～29 歳」及び「30～34 歳」が高く、「30～34 歳」で出生率がピークになっている（表 11）。

表 11 母の年齢階級別出生率（女性人口千対）の国際比較 — 最新年次 —

国名	最新年次	総 数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
日本	2019 令和 元 年	35.7	2.8	24.9	77.2	98.5	55.8	11.7	0.3
韓国	1) 2018 平成 30	26.4	1.0	8.1	39.9	89.5	45.9	6.4	0.2
シンガポール	1) 2019 令和 元	39.1	2.5	13.4	64.9	108.1	59.6	11.4	0.5
フランス	1) 2018 平成 30	51.6	4.6	40.2	107.0	126.9	68.8	18.0	1.2
ドイツ	1) 2018 30	46.2	7.4	35.8	84.3	109.8	63.3	13.5	0.6
イタリア	1) 2018 30	34.8	4.1	25.0	62.0	89.2	59.7	15.7	1.4
スウェーデン	1) 2018 30	53.1	4.3	39.6	104.9	124.9	66.9	14.2	1.0
イギリス	1) 2018 30	49.3	11.8	49.5	89.6	106.5	63.6	14.5	1.0
アメリカ	2) 2019 令和 元	58.3	16.7	66.6	93.7	98.3	52.8	12.0	0.9

資料：1) U.N. Demographic Yearbook 2019 による。

2) U.S. Department of Health and Human Services, National Vital Statistics Reports, Vol. 70, No. 2 による。

出生に占める嫡出でない子の割合の国際比較をみると、高い割合となっている国が多く、特に、フランス及びスウェーデンは、出生の半数以上が嫡出でない子となっている（表 12）。

表 12 出生に占める嫡出でない子の割合の国際比較 — 最新年次 —

国名	最新年次	割合（％）
日本	2019 令和 元 年	2.3
フランス	1) 2019 元	61.0
ドイツ	1) 2019 元	33.3
イタリア	1) 2019 元	35.4
スウェーデン	1) 2019 元	54.5
イギリス	1) 2017 平成 29	48.2
アメリカ	2) 2019 令和 元	40.0

資料：1) Eurostat Statistics Database による。

2) U.S. Department of Health and Human Services, National Vital Statistics Reports, Vol. 70, No. 2 による。

統計表

統計表 1 出生数・出生率（人口千対）・合計特殊出生率・出生性比の年次推移 ― 明治 32～令和元年 ―

年 次	出生数	出生率 (人口千対)	合計特殊 出生率	出生性比	年 次	出生数	出生率 (人口千対)	合計特殊 出生率	出生性比
明治 32 年	1 386 981	32.0	…	105.9	36	1 589 372	16.9	1.96	105.9
33	1 420 534	32.4	…	105.1	37	1 618 616	17.0	1.98	106.1
34	1 501 591	33.9	…	105.1	38	1 659 521	17.3	2.00	105.7
35	1 510 835	33.6	…	104.8	39	1 716 761	17.7	2.05	105.9
36	1 489 816	32.7	…	105.2	40	1 823 697	18.6	2.14	105.3
37	1 440 371	31.2	…	105.1	41	1 360 974	13.7	1.58	107.6
38	1 452 770	31.2	…	102.7	42	1 935 647	19.4	2.23	105.3
39	1 394 295	29.6	…	108.7	43	1 871 839	18.6	2.13	107.1
40	1 614 472	34.0	…	102.7	44	1 889 815	18.5	2.13	107.2
41	1 662 815	34.7	…	104.6	45	1 934 239	18.8	2.13	107.1
42	1 693 850	34.9	…	104.1	46	2 000 973	19.2	2.16	106.7
43	1 712 857	34.8	…	103.9	47	2 038 682	19.3	2.14	106.5
44	1 747 803	35.1	…	104.0	48	2 091 983	19.4	2.14	106.2
大正 元	1 737 674	34.4	…	104.1	49	2 029 989	18.6	2.05	106.4
2	1 757 441	34.3	…	104.4	50	1 901 440	17.1	1.91	106.2
3	1 808 402	34.8	…	104.9	51	1 832 617	16.3	1.85	106.2
4	1 799 326	34.1	…	104.2	52	1 755 100	15.5	1.80	106.1
5	1 804 822	33.7	…	104.3	53	1 708 643	14.9	1.79	106.0
6	1 812 413	33.5	…	104.2	54	1 642 580	14.2	1.77	106.2
7	1 791 992	32.7	…	104.3	55	1 576 889	13.6	1.75	106.0
8	1 778 685	32.3	…	104.9	56	1 529 455	13.0	1.74	105.9
9	2 025 564	36.2	…	104.5	57	1 515 392	12.8	1.77	105.5
10	1 990 876	35.1	…	104.5	58	1 508 687	12.7	1.80	105.7
11	1 969 314	34.3	…	104.0	59	1 489 780	12.5	1.81	105.4
12	2 043 297	35.2	…	104.4	60	1 431 577	11.9	1.76	105.6
13	1 998 520	33.9	…	104.2	61	1 382 946	11.4	1.72	105.9
14	2 086 091	34.9	…	103.5	62	1 346 658	11.1	1.69	105.8
昭和 元	2 104 405	34.6	…	105.8	63	1 314 006	10.8	1.66	105.6
2	2 060 737	33.4	…	103.7	平成 元	1 246 802	10.2	1.57	105.6
3	2 135 852	34.1	…	104.4	2	1 221 585	10.0	1.54	105.4
4	2 077 026	32.7	…	104.0	3	1 223 245	9.9	1.53	105.7
5	2 085 101	32.4	…	105.3	4	1 208 989	9.8	1.50	106.0
6	2 102 784	32.1	…	104.3	5	1 188 282	9.6	1.46	105.6
7	2 182 742	32.9	…	105.0	6	1 238 328	10.0	1.50	105.6
8	2 121 253	31.5	…	105.2	7	1 187 064	9.6	1.42	105.2
9	2 043 783	29.9	…	104.2	8	1 206 555	9.7	1.43	105.6
10	2 190 704	31.6	…	105.2	9	1 191 665	9.5	1.39	105.2
11	2 101 969	30.0	…	104.9	10	1 203 147	9.6	1.38	105.4
12	2 180 734	30.9	…	104.8	11	1 177 669	9.4	1.34	105.6
13	1 928 321	27.2	…	105.7	12	1 190 547	9.5	1.36	105.8
14	1 901 573	26.6	…	104.9	13	1 170 662	9.3	1.33	105.5
15	2 115 867	29.4	…	105.1	14	1 153 855	9.2	1.32	105.7
16	2 277 283	31.8	…	104.8	15	1 123 610	8.9	1.29	105.5
17	2 233 660	30.9	…	105.2	16	1 110 721	8.8	1.29	105.2
18	2 253 535	30.9	…	105.3	17	1 062 530	8.4	1.26	105.3
22	2 678 792	34.3	4.54	105.8	18	1 092 674	8.7	1.32	105.3
23	2 681 624	33.5	4.40	105.8	19	1 089 818	8.6	1.34	105.6
24	2 696 638	33.0	4.32	104.8	20	1 091 156	8.7	1.37	105.2
25	2 337 507	28.1	3.65	106.1	21	1 070 036	8.5	1.37	105.4
26	2 137 689	25.3	3.26	104.9	22	1 071 305	8.5	1.39	105.8
27	2 005 162	23.4	2.98	105.2	23	1 050 807	8.3	1.39	105.0
28	1 868 040	21.5	2.69	105.2	24	1 037 232	8.2	1.41	105.2
29	1 769 580	20.0	2.48	106.2	25	1 029 817	8.2	1.43	105.1
30	1 730 692	19.4	2.37	105.8	26	1 003 609	8.0	1.42	105.6
31	1 665 278	18.4	2.22	105.8	27	1 005 721	8.0	1.45	105.1
32	1 566 713	17.2	2.04	105.7	28	977 242	7.8	1.44	105.6
33	1 653 469	18.0	2.11	105.5	29	946 146	7.6	1.43	104.9
34	1 626 088	17.5	2.04	105.8	30	918 400	7.4	1.42	105.2
35	1 606 041	17.2	2.00	105.6	令和 元	865 239	7.0	1.36	105.1

- 注：1) 昭和19～21年は資料不備のため省略した。昭和22～47年は沖縄県を含まない。
2) 昭和元年・5年・10年の出生数には、男女不詳各1を含む。
3) 出生率算出に用いた分母人口は、昭和41年以前は総人口、昭和42年以降は日本人人口である。
4) 合計特殊出生率算出に用いた分母人口は、日本人人口である。

統計表 2 女性の出生コーホート別にみた年齢別初婚率・出生率（女性人口千対）

— 昭和40・45・50・55・60・平成2年生まれ —

女性の 年 齢	昭和40年生まれ					昭和45年生まれ				
	初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）				初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）			
		総数	第1子	第2子	第3子		総数	第1子	第2子	第3子
19 歳	15.6	13.0	11.8	1.2	0.0	13.4	10.7	9.6	1.0	0.1
20	28.6	21.6	18.3	3.0	0.2	24.9	18.7	16.1	2.6	0.1
21	41.3	33.1	26.1	6.6	0.4	35.9	29.4	23.7	5.4	0.4
22	58.0	46.9	34.7	11.2	1.0	49.1	40.2	29.8	9.5	0.8
23	79.1	66.7	47.0	17.6	1.9	68.6	53.4	37.6	14.2	1.5
24	92.7	88.4	60.2	24.7	3.3	81.3	73.6	50.1	20.3	2.9
25	97.8	108.6	69.7	33.1	5.4	88.2	87.4	57.0	25.6	4.4
26	88.5	128.6	77.0	43.3	7.6	83.5	103.9	63.3	33.6	6.2
27	70.6	138.8	75.2	51.9	10.7	67.6	113.4	64.6	39.5	8.3
28	56.9	139.3	67.6	56.7	13.6	57.1	120.1	63.4	45.0	10.3
29	43.0	141.3	61.2	60.8	17.3	44.6	118.0	57.0	47.3	11.9
30	30.8	124.1	47.0	55.9	18.7	34.4	113.2	48.5	48.6	13.9
31	22.7	112.4	37.3	52.1	20.0	26.9	101.5	39.0	45.3	14.6
32	16.5	94.9	28.2	43.8	19.6	20.5	89.3	31.6	40.6	14.5
33	12.9	80.1	22.3	36.2	18.1	16.7	77.3	25.8	34.8	13.9
34	10.2	63.8	17.2	27.8	15.3	13.7	67.1	22.0	29.8	12.5
35	8.5	52.7	14.1	22.0	13.2	11.1	55.6	18.2	23.7	10.9

女性の 年 齢	昭和50年生まれ					昭和55年生まれ				
	初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）				初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）			
		総数	第1子	第2子	第3子		総数	第1子	第2子	第3子
19 歳	13.2	11.1	10.0	1.1	0.0	14.4	12.9	11.6	1.2	0.1
20	23.0	18.3	15.7	2.5	0.2	24.0	21.6	18.5	3.0	0.2
21	31.2	27.1	21.4	5.3	0.4	30.1	30.0	23.6	5.9	0.4
22	41.7	36.6	27.0	8.8	0.8	35.7	38.1	27.8	9.4	0.9
23	55.9	48.5	34.0	12.9	1.5	43.2	45.1	30.0	13.2	1.7
24	66.2	60.8	41.6	16.4	2.6	51.9	54.4	34.4	17.0	2.6
25	76.1	75.7	49.9	21.7	3.6	61.6	64.2	39.8	20.1	3.8
26	75.1	87.6	54.5	27.3	5.1	66.8	77.4	46.4	24.8	5.4
27	67.0	96.3	57.1	31.9	6.4	64.9	88.2	51.1	29.0	7.1
28	58.7	102.3	56.2	37.1	7.9	61.9	98.4	54.4	33.5	9.0
29	49.8	106.3	54.4	40.8	9.5	53.6	105.2	56.2	36.6	10.4
30	38.7	101.7	48.4	41.0	10.6	41.8	105.7	51.8	39.4	11.9
31	31.3	101.2	43.7	42.8	12.6	32.5	104.5	46.3	41.7	13.5
32	25.2	95.0	37.5	41.3	13.7	28.1	101.0	41.2	41.6	14.9
33	21.6	87.5	31.9	38.1	14.5	24.2	95.2	35.9	40.4	15.1
34	17.9	79.0	28.2	33.5	14.0	20.6	88.8	32.8	37.0	15.1
35	14.9	69.8	24.3	29.0	13.2	16.7	81.7	29.8	33.3	14.8

女性の 年 齢	昭和60年生まれ					平成2年生まれ				
	初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）				初婚率 (女性人口千対)	出生率（女性人口千対）			
		総数	第1子	第2子	第3子		総数	第1子	第2子	第3子
19 歳	13.9	14.5	12.7	1.8	0.1	11.7	13.0	11.2	1.6	0.1
20	20.0	20.7	16.7	3.7	0.3	17.6	19.4	15.8	3.4	0.3
21	25.0	29.0	21.7	6.7	0.6	20.2	25.9	18.8	6.3	0.7
22	30.3	35.7	24.6	9.8	1.2	25.6	30.8	20.5	9.0	1.2
23	40.1	44.9	28.8	13.5	2.4	34.0	37.7	23.9	11.4	2.1
24	50.4	53.6	33.3	16.4	3.4	45.4	45.1	28.3	13.2	3.2
25	61.1	65.3	39.7	20.1	4.7	57.5	57.1	35.6	16.4	4.3
26	63.0	77.5	45.7	24.0	6.6	63.1	69.1	42.5	20.0	5.5
27	62.5	88.9	50.9	28.5	8.0	61.7	82.6	49.8	24.8	6.6
28	58.4	99.6	54.8	33.0	9.7	53.9	96.1	56.0	30.2	8.1
29	51.7	107.4	56.7	37.0	11.1	48.2	102.8	56.3	34.5	9.6
30	40.4	111.8	55.4	40.4	13.0	...	...	...	...	...
31	32.1	109.6	48.8	43.1	14.2	...	...	...	...	...
32	26.5	104.6	41.6	43.8	15.3	...	...	...	...	...
33	21.5	97.6	36.0	41.2	16.2	...	...	...	...	...
34	19.0	86.3	30.3	36.0	15.7	...	...	...	...	...
35	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

注：初婚率は、各届出年に結婚生活に入ったものについての数値であり、届け出の前年以前に結婚生活に入ったものは含まれていない。

統計表 3 出生コーホート別にみた年齢階級別累積出生率の内訳 — 昭和7～平成12年生まれ —

出生年	累積出生率の内訳						
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
昭和 7 年生まれ (87歳)	0.06	0.59	0.88	0.39	0.10	0.01	0.00
8 (86)	0.05	0.56	0.91	0.41	0.10	0.01	0.00
9 (85)	0.04	0.55	0.92	0.41	0.10	0.01	0.00
10 (84)	0.03	0.53	0.93	0.41	0.09	0.01	0.00
11 (83)	0.03	0.54	0.96	0.40	0.09	0.01	0.00
12 (82)	0.03	0.53	0.92	0.44	0.09	0.01	0.00
13 (81)	0.03	0.55	0.98	0.44	0.08	0.01	0.00
14 (80)	0.02	0.53	0.97	0.43	0.08	0.01	0.00
15 (79)	0.02	0.51	0.95	0.41	0.07	0.01	0.00
16 (78)	0.02	0.53	0.97	0.41	0.07	0.01	0.00
17 (77)	0.02	0.50	1.06	0.40	0.07	0.01	0.00
18 (76)	0.02	0.51	1.04	0.38	0.07	0.01	0.00
19 (75)	0.02	0.53	1.05	0.36	0.07	0.01	0.00
20 (74)	0.02	0.56	1.09	0.35	0.07	0.01	0.00
21 (73)	0.02	0.52	1.00	0.34	0.07	0.01	0.00
22 (72)	0.02	0.49	0.90	0.32	0.07	0.01	0.00
23 (71)	0.02	0.54	0.97	0.36	0.08	0.01	0.00
24 (70)	0.02	0.53	0.95	0.37	0.09	0.01	0.00
25 (69)	0.02	0.55	0.97	0.39	0.09	0.01	0.00
26 (68)	0.02	0.54	0.95	0.40	0.10	0.01	0.00
27 (67)	0.02	0.52	0.93	0.42	0.10	0.01	0.00
28 (66)	0.02	0.50	0.94	0.44	0.10	0.01	0.00
29 (65)	0.02	0.48	0.95	0.45	0.11	0.01	0.00
30 (64)	0.02	0.43	0.94	0.46	0.11	0.02	0.00
31 (63)	0.02	0.41	0.94	0.47	0.12	0.02	0.00
32 (62)	0.02	0.39	0.94	0.48	0.13	0.02	0.00
33 (61)	0.02	0.36	0.90	0.47	0.13	0.02	0.00
34 (60)	0.02	0.36	0.88	0.47	0.14	0.02	0.00
35 (59)	0.02	0.35	0.84	0.48	0.14	0.02	0.00
36 (58)	0.02	0.33	0.80	0.48	0.15	0.02	0.00
37 (57)	0.02	0.32	0.76	0.48	0.15	0.02	0.00
38 (56)	0.02	0.30	0.72	0.48	0.16	0.02	0.00
39 (55)	0.02	0.28	0.68	0.49	0.16	0.03	0.00
40 (54)	0.02	0.26	0.66	0.48	0.16	0.03	0.00
41 (53)	0.02	0.27	0.70	0.52	0.18	0.03	0.00
42 (52)	0.02	0.21	0.57	0.44	0.16	0.03	0.00
43 (51)	0.02	0.23	0.60	0.47	0.18	0.04	0.00
44 (50)	0.02	0.22	0.57	0.46	0.19	0.04	0.00
45 (49)	0.02	0.22	0.54	0.45	0.20	0.04	0.00
46 (48)	0.02	0.21	0.52	0.44	0.21	0.05	
47 (47)	0.02	0.20	0.50	0.44	0.22	0.05	
48 (46)	0.02	0.20	0.49	0.44	0.23	0.05	
49 (45)	0.02	0.20	0.48	0.45	0.24	0.06	
50 (44)	0.02	0.19	0.47	0.46	0.25	0.06	
51 (43)	0.02	0.19	0.45	0.47	0.26		
52 (42)	0.02	0.19	0.44	0.48	0.28		
53 (41)	0.02	0.19	0.43	0.48	0.28		
54 (40)	0.02	0.19	0.44	0.49	0.29		
55 (39)	0.02	0.19	0.43	0.50	0.29		
56 (38)	0.02	0.19	0.44	0.50			
57 (37)	0.03	0.19	0.44	0.51			
58 (36)	0.03	0.19	0.44	0.51			
59 (35)	0.03	0.19	0.44	0.51			
60 (34)	0.03	0.18	0.44	0.51			
61 (33)	0.03	0.18	0.44				
62 (32)	0.03	0.18	0.43				
63 (31)	0.02	0.17	0.42				
平成 元 (30)	0.03	0.17	0.42				
2 (29)	0.02	0.16	0.41				
3 (28)	0.02	0.15					
4 (27)	0.02	0.15					
5 (26)	0.02	0.14					
6 (25)	0.02	0.14					
7 (24)	0.02	0.14					
8 (23)	0.02						
9 (22)	0.02						
10 (21)	0.02						
11 (20)	0.02						
12 (19)	0.01						

注：1) ()内の年齢は令和元年時点の年齢である。

2) 空欄は計数を得られていない。

3) 昭和22年生まれについては「第1次ベビーブーム」、41年と42年生まれについては「ひのえうま」の影響に留意する必要がある。

統計表 4 第1子出生までの結婚期間別にみた出生構成割合

－ 昭和50・60・平成7・17・27・令和元年 －

結婚期間	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成27年	令和元年
0月	0.2	0.3	0.6	0.8	1.0	0.9
1	0.1	0.3	0.4	0.8	0.9	0.9
2	0.2	0.4	0.6	1.1	1.3	1.3
3	0.3	0.9	1.3	1.9	2.0	1.9
4	0.7	2.1	3.0	3.8	2.9	2.6
5	1.3	3.8	5.1	5.3	3.5	3.1
6	1.8	4.2	5.3	6.0	3.8	3.4
7	2.0	3.0	4.2	5.1	3.5	2.9
8	3.5	3.5	3.0	2.5	2.1	1.9
9	10.1	8.1	5.2	3.2	2.6	2.4
10	10.8	8.3	5.3	3.4	2.7	2.4
11	8.4	6.6	4.6	3.1	2.6	2.4
1年 0	6.8	5.6	4.1	3.1	2.8	2.5
1	5.4	4.6	3.6	2.8	2.6	2.3
2	4.7	4.0	3.3	2.6	2.5	2.3
3	4.0	3.5	3.1	2.5	2.5	2.4
4	3.5	3.0	2.8	2.3	2.4	2.3
5	3.1	2.8	2.6	2.2	2.3	2.3
6	2.7	2.5	2.4	2.1	2.3	2.3
7	2.3	2.3	2.2	2.0	2.2	2.2
8	2.1	2.1	2.1	1.9	2.1	2.2
9	1.9	1.8	2.0	1.8	2.1	2.1
10	1.8	1.7	1.9	1.7	1.9	2.1
11	1.6	1.6	1.8	1.6	1.8	2.0
2年 0	1.5	1.5	1.7	1.6	1.9	2.0
1	1.3	1.3	1.5	1.5	1.7	1.9
2	1.2	1.2	1.5	1.4	1.6	1.8
3	1.1	1.1	1.3	1.3	1.6	1.7
4	1.0	1.0	1.2	1.2	1.5	1.6
5	0.9	0.9	1.2	1.2	1.4	1.6
6	0.9	0.9	1.1	1.1	1.3	1.5
7	0.8	0.8	1.0	1.1	1.2	1.4
8	0.7	0.8	1.0	1.0	1.2	1.4
9	0.7	0.7	0.9	1.0	1.2	1.3
10	0.6	0.7	0.9	0.9	1.1	1.2
11	0.6	0.6	0.8	0.9	1.0	1.2
3年 0	0.5	0.6	0.8	0.9	1.0	1.2
1	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	1.1
2	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	1.0
3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0
4	0.4	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9
5	0.4	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9
6	0.4	0.4	0.5	0.7	0.8	0.9
7	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8
8	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8
9	0.3	0.3	0.4	0.6	0.7	0.7
10	0.3	0.3	0.4	0.6	0.6	0.7
11	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7

注：1) 嫡出第1子についての数値である。

2) 結婚期間不詳を除いた総数に対する構成割合である。

3) 0月とは生まれた月と同居を始めた月が同じ場合である。

統計表 5 母の年齢階級別にみた「結婚期間が妊娠期間より短い出生数」及び
「嫡出第1子に占める出生構成割合」 — 平成7～令和元年 —

年次	結婚期間が妊娠期間より短い出生数（千人）					
	総数	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～
平成 7 年	125	10	65	38	10	3
12	150	12	67	52	15	4
13	154	13	66	53	17	4
14	155	13	65	54	18	5
15	143	12	59	49	19	5
16	139	11	57	47	19	5
17	132	10	53	44	19	6
18	137	9	55	46	20	6
19	133	8	52	45	20	7
20	131	8	51	44	20	8
21	125	8	47	42	19	8
22	119	7	43	41	19	9
23	113	7	40	39	18	9
24	105	6	36	36	18	9
25	101	6	34	34	18	10
26	97	6	32	31	17	10
27	93	5	31	30	17	10
28	89	5	30	28	16	10
29	82	4	28	26	15	9
30	77	4	26	24	14	9
令和 元	70	3	23	22	13	8

年次	嫡出第1子出生に占める割合（％）					
	総数	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳～
平成 7 年	22.5	73.9	47.0	14.2	9.2	10.0
12	26.3	81.7	58.3	19.6	10.9	10.3
13	27.5	82.3	60.2	21.1	11.9	10.9
14	27.9	82.7	61.5	22.4	12.1	11.0
15	26.9	82.7	61.9	22.2	11.9	10.6
16	26.7	82.9	63.3	22.9	11.7	10.7
17	26.6	83.2	64.1	23.4	12.0	10.7
18	26.9	82.3	64.8	24.7	12.3	10.7
19	26.4	81.6	64.1	24.7	12.2	10.7
20	26.2	80.7	64.0	24.9	12.3	10.9
21	25.3	81.5	63.6	24.6	12.1	10.8
22	24.3	81.9	62.3	24.0	12.2	10.5
23	23.7	82.5	61.7	23.6	12.1	10.5
24	22.6	82.2	61.6	22.8	11.8	10.3
25	21.8	81.9	60.7	21.8	11.8	10.1
26	21.3	82.0	60.2	21.2	11.7	10.4
27	20.3	81.5	59.7	20.1	11.2	10.2
28	20.2	82.3	59.7	19.6	11.3	10.4
29	19.5	81.1	58.2	18.7	10.8	10.0
30	18.9	80.4	56.3	18.1	10.4	10.2
令和 元	18.4	80.4	55.0	17.6	10.1	10.1

注：1) 割合は、結婚期間不詳を除いた嫡出第1子出生数に対する数値である。

2) 総数には母の年齢不詳を含む。

統計表 6 都道府県別にみた母の年齢階級別出生率（女性人口千対）・合計特殊出生率・妻の平均初婚年齢
— 令和元年 —

都道府県	出生率（女性人口千対）				合計特殊 出生率	平均初婚 年齢
	20～24歳	25～29	30～34	35～39		
全 国	24.9	77.2	98.5	55.8	1.36	29.6
北海道	29.2	74.6	85.7	46.4	1.24	29.4
青 森	36.7	88.2	89.5	48.4	1.38	29.3
岩 手	34.9	91.2	86.0	46.4	1.35	29.2
宮 城	23.1	71.9	89.1	48.8	1.23	29.4
秋 田	30.9	94.4	86.4	44.9	1.33	29.7
山 形	29.3	94.7	97.3	49.1	1.40	29.0
福 島	40.0	98.9	96.5	46.0	1.47	29.0
茨 城	32.7	86.9	94.9	49.6	1.39	29.4
栃 木	30.0	89.5	95.5	50.8	1.39	29.4
群 馬	29.5	89.5	96.6	51.6	1.40	29.3
埼 玉	19.9	70.6	95.8	55.1	1.27	29.7
千 葉	21.1	70.4	96.6	53.7	1.28	29.7
東 京	11.7	48.2	88.8	62.5	1.15	30.5
神奈川	16.9	64.0	98.5	60.6	1.28	30.0
新 潟	27.6	86.5	97.5	51.3	1.38	29.4
富 山	26.2	103.4	106.5	57.7	1.53	29.1
石 川	26.0	91.5	106.6	55.6	1.46	29.1
福 井	27.3	105.3	111.7	56.1	1.56	29.2
山 梨	27.4	87.4	100.6	58.9	1.44	29.4
長 野	29.8	96.5	114.9	58.6	1.57	29.5
岐 阜	24.8	92.4	108.5	52.7	1.45	28.9
静 岡	28.6	90.9	103.1	52.7	1.44	29.3
愛 知	24.1	86.9	109.1	57.2	1.45	29.1
三 重	30.8	92.9	105.8	52.5	1.47	28.9
滋 賀	25.0	86.3	110.4	59.1	1.47	29.2
京 都	18.0	61.1	96.2	59.2	1.25	29.8
大 阪	24.2	70.8	94.9	56.2	1.31	29.6
兵 庫	24.7	81.3	105.8	56.5	1.41	29.5
奈 良	19.0	76.0	98.3	54.8	1.31	29.7
和歌山	37.1	96.4	96.0	49.3	1.46	29.0
鳥 取	37.4	103.5	112.2	59.5	1.63	29.2
島 根	37.9	118.9	106.2	59.7	1.68	29.0
岡 山	31.1	93.9	100.7	53.9	1.47	28.8
広 島	30.8	93.3	104.9	53.5	1.49	29.1
山 口	40.6	104.7	101.9	50.7	1.56	28.9
徳 島	30.1	93.3	103.4	50.8	1.46	29.3
香 川	38.8	109.1	103.0	52.9	1.59	28.9
愛 媛	39.5	95.6	97.7	46.2	1.46	29.1
高 知	36.0	90.8	97.8	54.6	1.47	29.5
福 岡	30.5	83.2	100.6	57.0	1.44	29.5
佐 賀	42.8	106.9	108.2	55.0	1.64	29.0
長 崎	40.0	106.3	112.2	57.8	1.66	29.1
熊 本	40.4	101.6	103.7	58.7	1.60	29.3
大 分	36.5	102.2	102.4	51.1	1.53	29.4
宮 崎	50.7	113.2	108.1	56.3	1.73	28.9
鹿児島	40.0	107.5	106.5	56.4	1.63	29.5
沖 縄	51.6	100.2	112.5	72.7	1.82	29.3

注：1）数値の算出には、全国値は各歳別の女性の日本人人口、都道府県値は5歳階級別の女性の日本人人口を用いた。

2）合計特殊出生率の、全国値は母の年齢15～49歳の各歳における出生率の合計であり、都道府県の値は年齢5歳階級における出生率の5倍の合計である。

用語の解説

- ・ 出生率 $= \frac{\text{年間の出生数}}{\text{10月1日現在日本人口}} \times 1000$
- ・ 年齢（階級）別出生率 $= \frac{\text{ある年齢（階級）の母の年間出生数}}{\text{10月1日現在におけるある年齢（階級）の女性人口}} \times 1000$
- ・ 合計特殊出生率 $= \left\{ \frac{\text{母の年齢階級別出生数}}{\text{年齢階級別女性人口}} \right\} 15 \text{ 歳から } 49 \text{ 歳までの合計}$
(都道府県及び21大都市は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。)
合計特殊出生率は「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性が、その年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
- ・ 年齢別初婚率 $= \frac{\text{ある年齢の妻の年間初婚件数}}{\text{10月1日現在におけるある年齢の女性人口}} \times 1000$
- ・ 有配偶出生率（国勢調査による配偶関係の「有配偶」「未婚」「死別」「離別」のうち、「有配偶」の女子人口を用いて算出した有配偶女子人口千人に対する嫡出出生数の割合）
$$\text{有配偶出生率} = \frac{\text{嫡出出生数（母の年齢15～49歳）}}{\text{10月1日現在における日本人女子の有配偶人口（15～49歳）}} \times 1,000$$
- ・ 母の年齢階級別有配偶出生率（有配偶出生率を年齢階級でみたもの）
$$\text{母の年齢階級別有配偶出生率} = \frac{\text{母のある年齢階級の嫡出出生数}}{\text{10月1日現在における日本人女子のある年齢階級の有配偶人口}} \times 1,000$$
- ・ 出生順位：同じ母親がこれまで生んだ出生子の総数について数えた順序。
- ・ 累積出生率：出生コーホートで算出した各年齢の出生率を足し上げたもの。同一世代の女性がある年齢までに生んだ子どもの数に相当する。世代ごとにみた出生率である。
- ・ 子を生んでいない女性の割合（％）：同一世代の女性のうち、ある年齢までに子を生んでいない者の割合。
$$\text{子を生んでいない女性の割合（％）} = (1 - \text{第1子累積出生率}) \times 100$$
- ・ 結婚期間：出生届における「同居を始めたとき」から「生まれたとき」までの期間をいう。ただし、出生届における「同居を始めたとき」は、結婚式を挙げたとき、または、同居を始めたときのうち早いほうを記入することとなっている。
- ・ 妊娠期間 $\left[\begin{array}{l} \text{早期：妊娠満37週未満(259日未満)} \\ \text{正期：妊娠満37週から満42週未満(259日から293日)} \\ \text{過期：妊娠満42週以上(294日以上)} \end{array} \right]$
- ・ 単産：単胎で生まれた出生。
- ・ 複産：双子・三つ子等多胎で生まれた出生。
- ・ 出生性比 $= \frac{\text{年間の男子出生数}}{\text{年間の女子出生数}} \times 100$